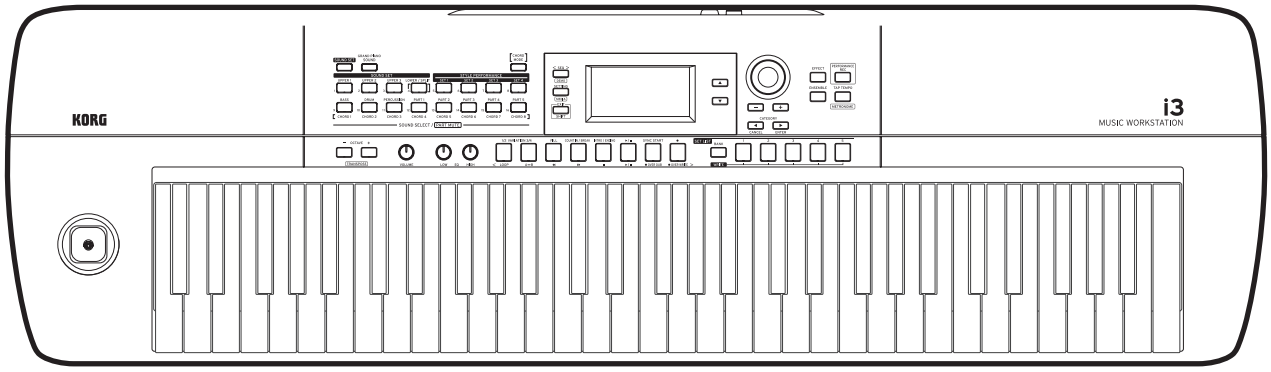
i3

MUSIC WORKSTATION

取扱説明書



KORG

J 2

目次

はじめに

主な特長 3

各部の名称 4
フロント・パネル 4
リア・パネル 4
コントロール・パネル 5
ディスプレイ 6

演奏の準備 7
ACアダプターを接続する 7
電池を使うときは 7
スピーカーを接続する 7
ヘッドホンを使うときは 8
ペダル・スイッチやフット・コントローラーを使うときは 8
USBメモリーを使うときは 8
オーディオ・プレーヤーと接続するときは 9
MIDI音源を使うときは 9
コンピューターと接続するときは 9

基本操作 10
電源を入れる、切る 10
音量を調節する 10
i3のモード 10
ディスプレイ上の項目を選ぶ、値を変える 11
ジョイスティックを使う 11
音質を調節する（イコライザー） 11
デモ・ソングを聴く 11
メトロノームを鳴らす 11

パフォーマンス・モード

鍵盤を弾く 12
サウンドを選ぶ 12
サウンド・セットを選ぶ 12

サウンド・セットの設定を変える 13
鍵盤パートのオン/オフ、音量、サウンドを変更する 13
左右の音を変える（スプリット） 13
オクターブを変更する 14
キーを変更する（トランスポーズ） 14
鍵盤パートのエフェクトを選ぶ 14
メロディーにハーモニーを付ける（アンサンブル） 15

セット・リストを使う 16
セット・リストを呼び出す 16
セット・リストを保存する（WRITE） 16

自動伴奏（スタイル）に合わせて弾く 17
スタイルを選んで演奏する 17
伴奏パターンに変化をつける 18

スタイルの設定を変える 19
伴奏パートのオン/オフ、音量、サウンドを変更する 19
伴奏パートのエフェクトを選ぶ 19
鍵盤パートと伴奏パートの音量バランスを調節する 20

演奏を録音する 21
MIDIデータとして録音する 21
オーディオ・データとして録音する（パフォーマンス・レコーディング） 21

シーケンサー・モード

ソングを再生、編集する 22
再生できるソング（音楽ファイル） 22
ソングを再生する 22
いろいろな方法で再生する 23
ユーザー・ソングを編集する 23

セッティング・モード

i3を設定する 25
セッティング・モードの基本的な使い方 25
主な設定 25
セッティング・モード機能一覧 26

メディア・モード

USBメモリーを使用する 28
メディア・モードの基本的な使い方 28
ユーザー・スタイルをロードする 28
メディア・モード機能一覧 29

その他

付録 30
ソフトウェアのバージョンの確認 30
工場出荷時の状態に戻す 30
エクスプレッション・ペダルのキャリブレーション 30
故障とお思いになる前に 30
コード認識一覧 32
ショート・カット一覧 33

仕様 34

MIDIインプリメンテーション・チャート 35

このたびはコルグ・ミュージック・ワークステーションi3をお買上げいただきまして、まことにありがとうございます。
i3を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。

取扱説明書について

i3の取扱説明書は以下のような構成です。

- **安全上のご注意/保証規定/アフターサービス（印刷物）**
  i3を安全にご使用いただくための注意などを説明しています。
- **クイック・スタート・ガイド（印刷物）**
  はじめにお読みください。i3の基本的な操作のしかたを説明しています。
- **取扱説明書（PDF）（本書）**
  i3の詳しい使い方を説明しています。
- **Voice Name List（ボイス・ネーム・リスト）（PDF）**
  i3で使用できるスタイル（自動伴奏）、サウンド・セット、デモ・ソングなどのリストです。

  PDFは、以下よりダウンロードしてください。
  www.korg.com

■ 取扱説明書の表記

マーク 、Note、Tip
これらのマークは、順番に、使用上の注意、ノート、アドバイスを表しています。

ディスプレイ表示

取扱説明書に記載されているディスプレイは表示例です。実際の表示と一致しない場合があります

主な特長

いろいろな音で演奏する

いろいろな楽器のサウンドと、さまざまなジャンルのリズム・パターンが多数収録されています。 12ページ

ワンタッチで演奏準備完了（セット・リスト機能）

ライブ演奏で便利な、お好みの自分専用のセッティングが記録、再現できるセット・リスト機能があります。 16ページ

スタイル（自動伴奏）に合わせて弾く

スタイルとはバックバンド、あるいはリズム伴奏のようなもので、さまざまなジャンルのスタイルを選択できます。左手でコードを弾きながら、右手でメロディーを一緒に弾いてみてください。 17ページ

コード演奏を支援（コード・モード）

鍵盤でコードを弾けなくても、ボタン一つでパターンに合わせたコード展開が可能です。お勧めのコードがあらかじめスタイルに設定されています。 18ページ

MIDI/AUDIOレコーダー＆プレーヤーを搭載

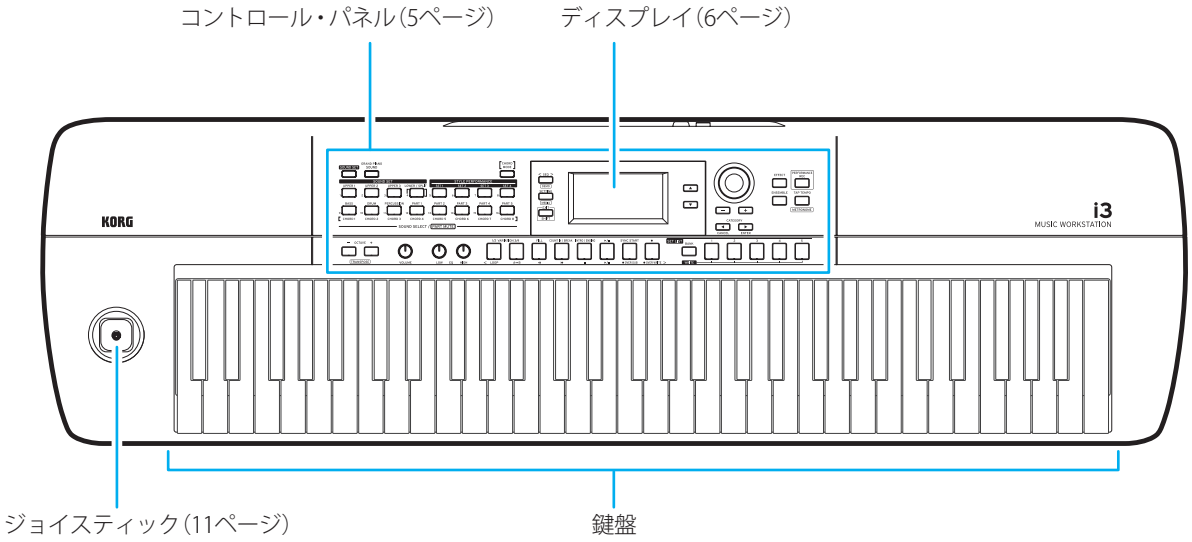
好きな曲に合わせて演奏したり、手軽に録音もできるMIDI/AUDIOレコーダー＆プレーヤーを搭載しています。USBメモリーに保存されたMP3、WAVE、SMFファイルをi3で再生することができます。また、演奏を簡単にレコーディングすることもできます。 .....21、22ページ

音に効果を付ける（エフェクト）

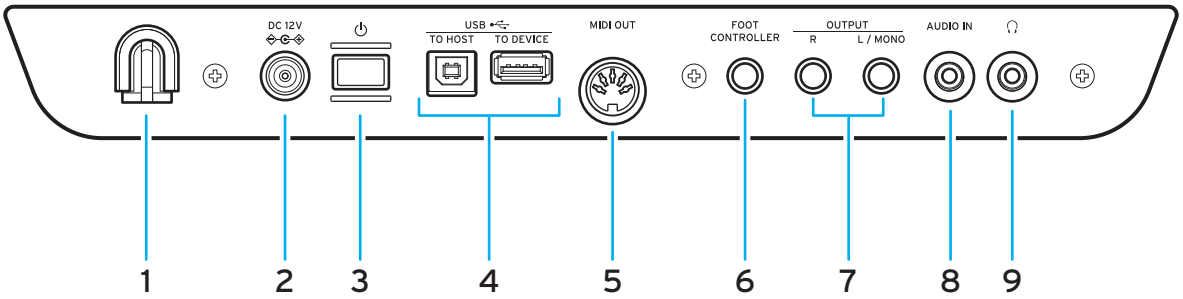
音を歪ませたり残響音を付けたりして、違う印象の聴こえ方にすることができます。 .....14、19ページ

各部の名称

フロント・パネル

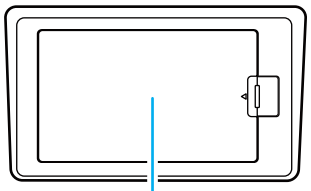


リア・パネル



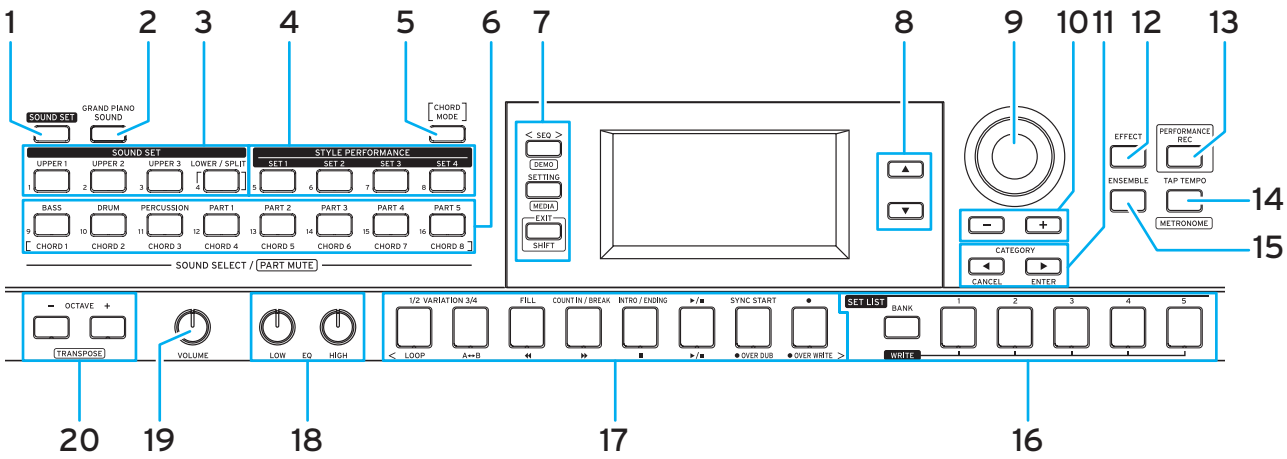
1. コード・フック.....7ページ
2. DC 12V端子（⊖◎⊕）.....7ページ
3. 電源ボタン（⏻）.....10ページ
4. USB TO DEVICE端子、USB TO HOST端子（USB）.....8ページ
5. MIDI OUT端子.....9ページ
6. FOOT CONTROLLER端子.....8ページ
7. OUTPUT L/MONO、R端子.....7ページ
8. AUDIO IN端子.....9ページ
9. ヘッドホン端子（🎧）.....8ページ
10. 電池ボックス.....7ページ

本体の裏側



10

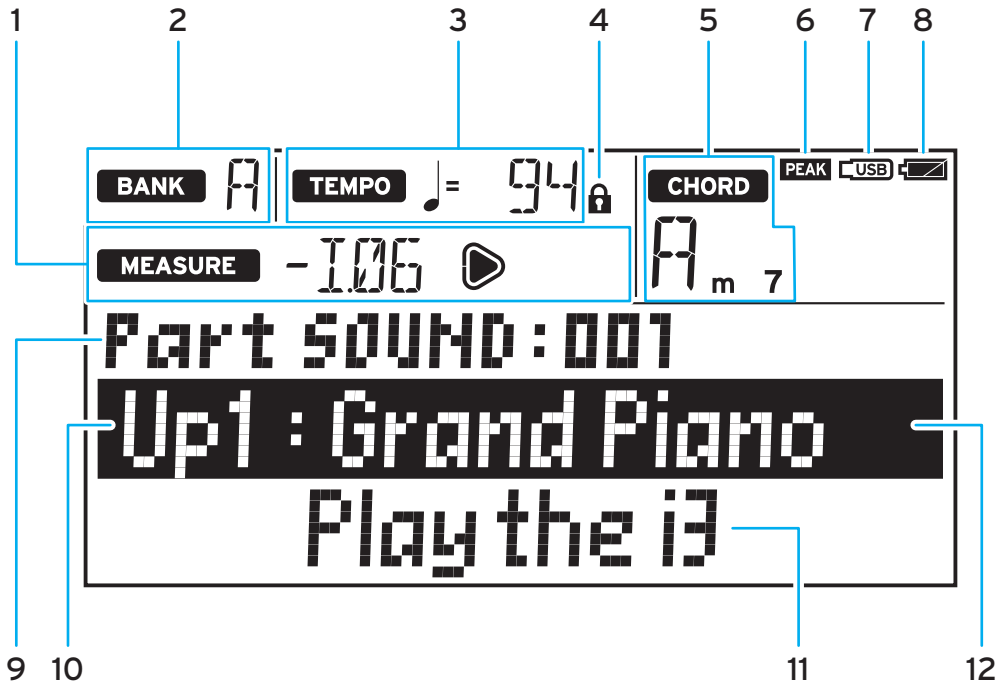
コントロール・パネル



1. **SOUND SETボタン** 12ページ
2. **GRAND PIANO/SOUNDボタン** 12ページ
3. **鍵盤パート・セクション** 12ページ
   UPPER 1ボタン
   UPPER 2ボタン
   UPPER 3ボタン
   LOWER/SPLITボタン
4. **スタイル・パフォーマンス・セクション** 17ページ
   SET 1 ～ SET 4ボタン
5. **CHORD MODEボタン** 18ページ
6. **伴奏パート・セクション** 17ページ
   BASSボタン
   DRUMボタン
   PERCUSSIONボタン
   PART 1 ～ 5ボタン
7. **モード・セクション** 10ページ
   SEQボタン
   SETTINGボタン
   EXIT（SHIFT）ボタン
   Tip: 「DEMO」や「MEDIA」など、下側に枠付きで機能が書かれたボタンは、EXIT（SHIFT）ボタンを押しながら操作することで別の操作が行えます（シフト機能）。詳しくは「ショート・カット一覧」（33ページ）を参照してください。
8. **▲ボタン、▼ボタン** 11ページ
9. **ダイヤル** 11ページ
10. **＋ボタン、－ボタン** 11ページ
11. **CATEGORY ◀、▶（CANCEL、ENTER）ボタン** 11ページ
12. **EFFECTボタン** ..... 14、19ページ
13. **PERFORMANCE RECボタン** 21ページ
14. **TAP TEMPOボタン** ..... 11、17ページ
15. **ENSEMBLEボタン** 15ページ
16. **SET LISTセクション** 16ページ
    BANK（WRITE）ボタン
    SET LIST 1 ～ 5ボタン
17. **トランスポート・セクション** 18ページ
    VARIATION 1/2ボタン
    VARIATION 3/4ボタン
    FILLボタン
    COUNT IN/BREAKボタン
    INTRO/ENDINGボタン
    ▶/■（再生、停止）ボタン
    SYNC STARTボタン
    ●（録音）ボタン
    Tip: シーケンサー・モードのときは、ボタン下に書かれた操作を行います。
18. **EQノブ（LOW、HIGH）** 11ページ
19. **VOLUMEノブ** 10ページ
20. **OCTAVEボタン（＋、－）** 14ページ

Tip: 一部のボタンは、押しながら他のボタンやダイヤルを使って操作することがあります。押し続ける操作は以下のマークで表記します。

ディスプレイ



1. **MEASURE**
   自動伴奏（スタイル）またはソングの小節が表示されます。小節の1拍目の位置で▶が点灯します。
2. **BANK**
   現在選ばれているセット・リスト（16ページ）のバンクを表示します。
3. **TEMPO**
   スタイルまたはソングのテンポが表示されます。
4. **テンポ・ロック・マーク**
   テンポを固定したときに表示されます（18ページ）。
5. **CHORD**
   コード認識音域で押さえたコード名を表示します（17ページ）。
6. **PEAKマーク**
   リア・パネルのAUDIO IN端子から入力された音声が、過大入力になった場合に点灯します（9ページ）。
7. **USBマーク**
   USB TO DEVICE端子にUSBメモリーが接続されているときに表示します（8ページ）。
8. **電池マーク**
   電池で動作しているときに、電池残量を表示します（7ページ）。
9. **設定する項目と番号**
   ディスプレイに表示している設定項目の名前と番号を表示します。
10. **サウンド・セット名またはサウンド名**
    現在選んでいるサウンド・セットやサウンドの名前を表示します。i3の設定などを行うときは、メニュー名などが表示されます。
11. **スタイル名またはソング名**
    現在選んでいるスタイルやソングの名前を表示します。i3の設定などを行うときは、設定値などが表示されます。
12. **カーソル**
    ダイヤルなどで操作可能な列を表します。▲ボタン、▼ボタンでカーソルを移動できます（11ページ）。

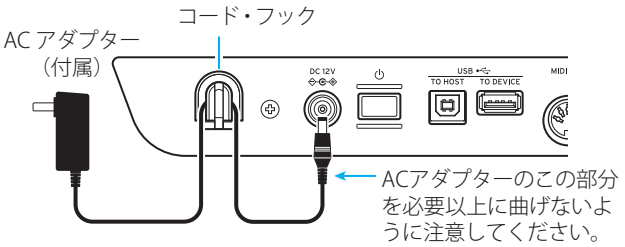
演奏の準備

ACアダプターを接続する

1. **i3の電源が切れていることを確認します。**
2. **付属のACアダプターのDCプラグを、リア・パネルにあるDC 12V端子に接続します。**

   必ず付属のACアダプターをお使いください。他のACアダプターを使用した場合、故障の原因となります。

   ACアダプターのコードをコード・フックに引っかけてください。コードをフックから外すときは、無理に引っ張らないでください。



3. **ACアダプターのプラグを電源コンセントに接続します。**

   電源は必ずAC100Vを使用してください。

電池を使うときは

単3形アルカリ乾電池またはニッケル水素電池を6本使用します。

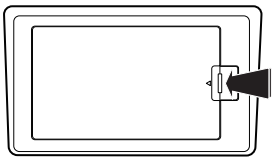
マンガン乾電池は使用できません。

Note: 電池は付属していません。別途お買い求めください。

電池をの入れ方

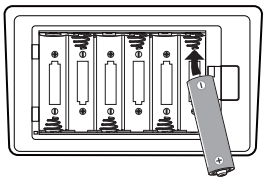
1. **i3の電源が切れていることを確認します。**
2. **本体の裏側にある、電池蓋のツメを押して、電池カバーを開けます。**

   Note: i3を裏返すときは、ディスプレイやジョイスティックなどを守るため、厚手の毛布などの上に置いてください。



3. **＋、－の向きを間違えないように電池を入れます。**

   新しい電池と古い電池、または異なる種類の電池を一緒に使わないでください。液漏れや破裂の恐れがあります。



4. **電池カバーを閉めます。**

Note: 電池の残量を正しく表示するために、使用する電池の種類を設定してください（25ページの「電池の種類を設定する」）。

電池の交換

ディスプレイの右上に電池マークが表示されます。

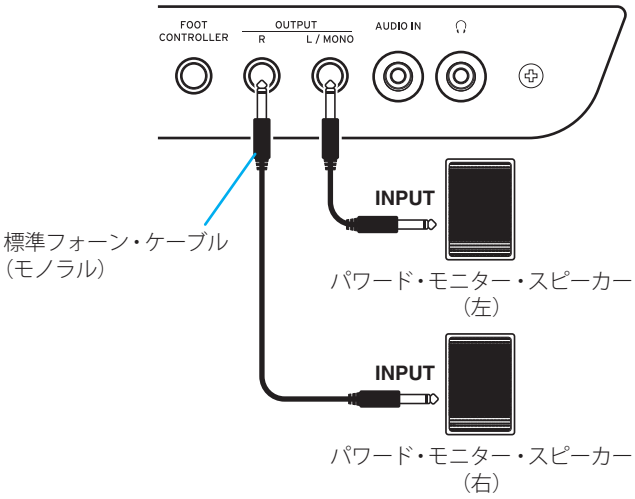
Note: ACアダプターを接続しているとき、電池マークは表示されません。

電池マークが点滅しているときは、電池の残量がほとんどありません。できるだけ早く電池を交換するかACアダプターを接続して、i3に電源を供給してください。

使えなくなった電池は、すぐに取り外してください。そのままにしておくと、電池の液漏れ等で故障の原因となります。また、長時間使用しない場合も、電池を取り外してください。

スピーカーを接続する

リア・パネルのOUTPUT L/MONO、R端子にパワード・モニター・スピーカーや家庭用ステレオなどの音響機器を接続します。モノラルで出力するときはOUTPUT L/MONO端子のみに接続します。



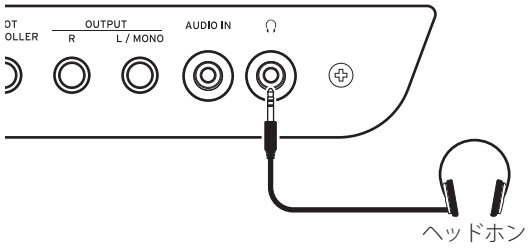
接続するときは、i3と音響機器の電源を切ってください。電源がオンのまま接続すると、接続した機器が破損したり、誤動作を起こしたりする原因となります。

スピーカーの電源をオンにした直後は、思わぬ大音量でスピーカーが破損することがあります。スピーカーを接続したり、電源をオンにしたりするときは、スピーカー側の音量も必ず最小にしてください。電源を切るときは、逆の順番に電源を切ってください。

ヘッドホンを使うときは

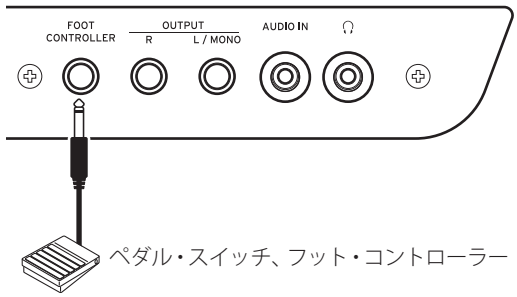
リア・パネルのヘッドホン端子に、市販のヘッドホンのステレオ・ミニ・プラグを接続します。ヘッドホンからはOUTPUT L/MONO、R端子と同じ音声が出力されます。

⚠ ヘッドホンを大音量で長時間ご使用になると聴覚障害の原因になることがあります。音量を上げすぎないように十分ご注意ください。



ペダル・スイッチやフット・コントローラーを使うときは

リア・パネルのFOOT CONTROLLER端子に、別売のペダル・スイッチやフット・コントローラーを接続します。
接続した機器に合わせ、セッティング・モードでペダルの機能（25ページ）や極性（25ページ）を設定してください。



ペダル・スイッチを接続したとき

コルグPS-1、PS-3ペダル・スイッチ、DS-1Hダンパー・ペダルを接続すると、ダンパー・スイッチとして機能します。ピアノのダンパー・ペダルのように、ペダルを踏んでいる間は鍵盤から指を離しても音を持続させることができます。

Note: ロワー・パート（13ページ）にはダンパー効果はかかりません。

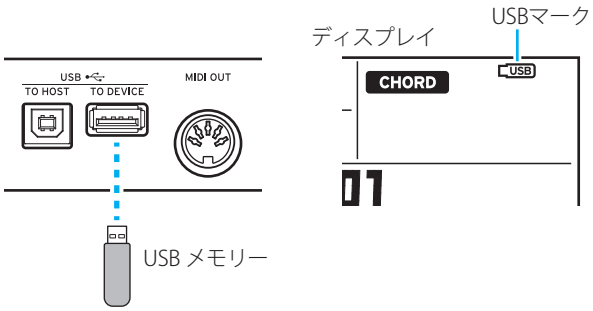
Note: ハーフ・ダンパー機能には対応していません。

フット・コントローラーを接続したとき

コルグEXP-2フット・コントローラーを接続すると、鍵盤パート（12ページ）の音量を調節できます。

USBメモリーを使うときは

i3の電源を切り、リア・パネルのUSB TO DEVICE端子にUSBメモリー（市販）を取り付けます。電源を入れると、ディスプレイの右上にUSBマーク（USB）が表示されます。



Note: USBメモリーの取り付けや取り外しは、必ず電源を切ってから行ってください。

Note: 接続するときはUSBメモリーの向きに注意してください。誤った向きで無理に装着すると、端子やUSBメモリーが破損したり、データが失われることがあります。

Note: 使用するUSBメモリーによっては、再生、録音などの操作が正しく行えない場合があります。詳しくはコルグ・ウェブサイトを参照してください。

Tip: USBが表示されないときは、電源を切ってからUSBメモリーを接続しなおしてください。

使用できるメディア

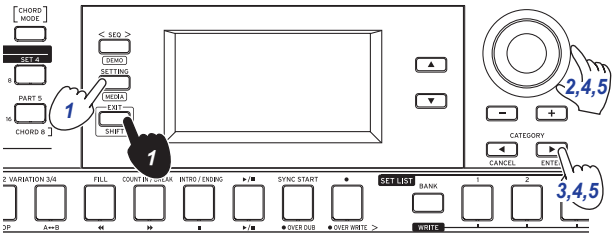
FAT16、FAT32フォーマットのUSBメモリー、USBストレージ・デバイスに対応します。

認識できる容量

FAT32：2TB（2,000GB）まで
FAT16：4GBまで

USBメモリーをフォーマットする

初めて使うUSBメモリーは、必ずi3でフォーマット（初期化）してください。



1. **EXIT（SHIFT）ボタンを押しながらSETTINGボタンを押して、メディア・モードに入ります。**
2. **ダイヤルを回すか＋ボタンを押して、"Media Format"を選びます。**
   ディスプレイに"Push[ENTER]"と表示されます。
3. **CATEGORY ▶（ENTER）ボタンを押します。**
   "Data Erase?"No""と表示されます。
4. **ダイヤルを回して"OK"を選び、CATEGORY ▶（ENTER）ボタンを押します。**
   "Sure?"と表示されます。

5. ダイヤルを回して"Yes"を選び、CATEGORY ▶（ENTER）ボタンを押します。

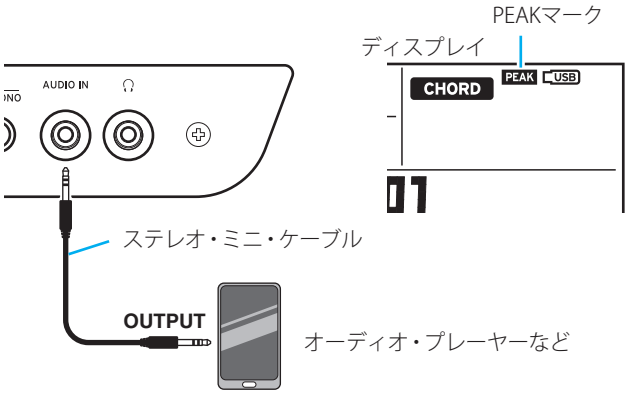
6. "Completed!"と表示されたら、EXIT（SHIFT）ボタンを押して、パフォーマンス・モードへ戻ります。

オーディオ・プレーヤーと接続するときは

リア・パネルのAUDIO IN端子にオーディオ・プレーヤーなどの機器を接続すると、i3に音声を入力して一緒に演奏することができます。入力された音声が過大入力になった場合は、ディスプレイのPEAKマークが点灯します。マークが点灯しないように、音量を調節してください。

Tip: 音量バランスを調節するときは、鍵盤を弾きながらオーディオ機器のボリュームを上げてください。全体の音量はVOLUMEノブ調節で調節できます。

Tip: セッティング・モードの「Audio In Level」（27ページ）でAUDIO IN端子の入力感度を調節することができます。

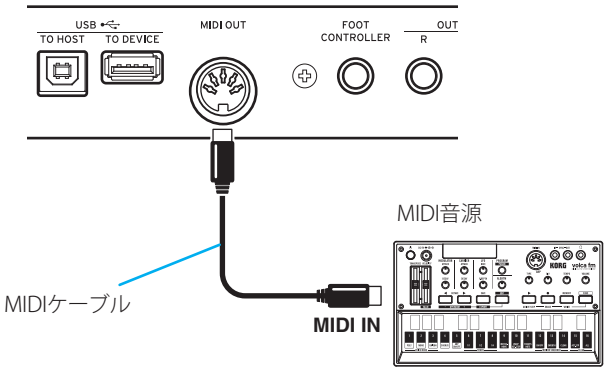


接続するときは、i3とオーディオ機器の電源を切ってください。電源がオンのまま接続すると、接続した機器が破損したり、誤動作を起こしたりする原因となります。

電源を入れるときは、オーディオ機器、i3の順に電源を入れてください。電源を切るときは、オーディオ機器での再生を停止してから、i3、オーディオ機器の順に電源を切ってください。

MIDI音源を使うときは

リア・パネルのMIDI OUT端子にMIDI音源を接続すると、i3の鍵盤で演奏することができます。

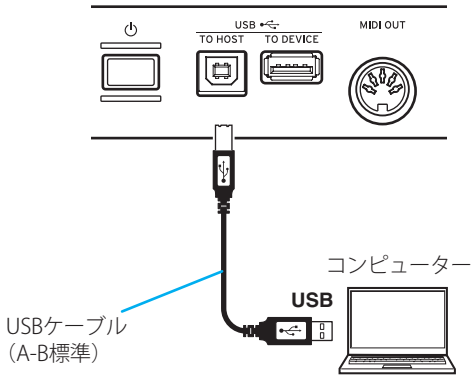


■ MIDI（ミディ）とは

MIDI（Musical Instrument Digital Interface）は、電子楽器やコンピューターの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

コンピューターと接続するときは

リア・パネルのUSB TO HOST端子にコンピューターを接続すると、i3をDAWソフトウェアなどのコントローラーやMIDI音源として使用することができます。

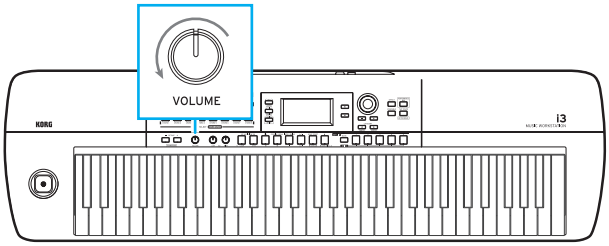


Tip: 接続後のMIDIに関する設定は、「MIDI Clock」（26ページ）、「Local Control」（27ページ）で行ってください。

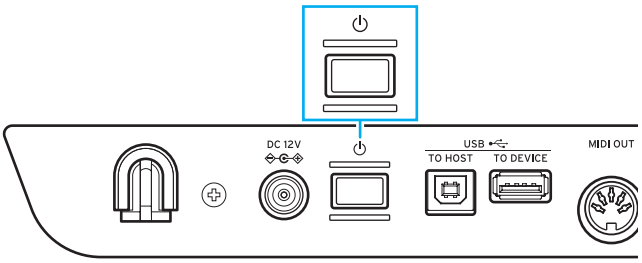
基本操作

電源を入れる、切る

1. **VOLUMEノブを左へ回して、音量を最小にします。**



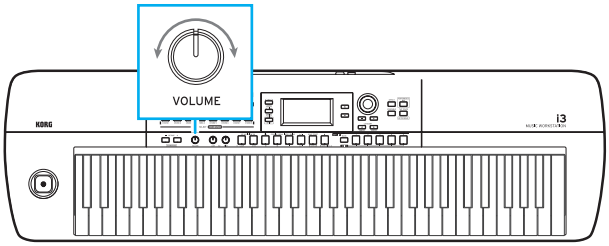
2. **リア・パネルの電源ボタン(⏻)を押して電源を入れます。**
   電源を切るときは、ディスプレイのバックライトが消えるまで電源ボタンを押し続けます。



i3が工場出荷時のときは、何も操作しないまま4時間経過すると、自動的に電源が切れるように設定されています(**オート・パワー・オフ機能**)。この設定は変更することができます(25ページ)。

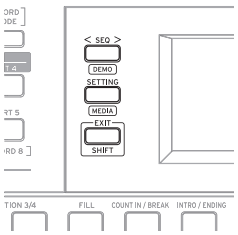
音量を調節する

- **フロント・パネルのVOLUMEノブを回して、適度な音量に調節します。**
  ボリューム・ノブは、OUTPUT L/MONO、R端子とヘッドホン端子の音量を設定します。



i3のモード

i3には4つのモードがあります。モードの切り替えはフロントパネルのボタンで行うことができます。



パフォーマンス・モード(12ページ)

鍵盤でi3のサウンドを演奏したり、スタイル(自動伴奏機能)を使って演奏をしたりするモードです。通常はパフォーマンス・モードで動作します。他のモードからパフォーマンス・モードに戻るには、EXIT(SHIFT)ボタンを押してSEQ、SETTING、EXIT(SHIFT)の各ボタンを消灯させます。

シーケンサー・モード(22ページ)

録音した演奏や音楽データ(MP3、WAV、SMF)を再生するモードです。再生しながら鍵盤を演奏することもできます。シーケンサー・モードに入るには、SEQボタンを押してボタンを点灯させます。

セッティング・モード(25ページ)

鍵盤のタッチ、マスター・チューン、MIDIなどの設定を行うモードです。セッティング・モードに入るには、SETTINGボタンを押してボタンを点灯させます。

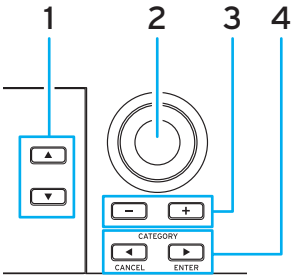
メディア・モード(28ページ)

i3の設定や録音した演奏などをUSBメモリーに保存したり、保存されたデータをロードしたりするモードです。メディア・モードに入るには、EXIT(SHIFT)ボタンを押しながら、SETTINGボタンを押します(ボタンが点灯)。

Note: USBメモリーを接続しないとメディア・モードに入ることはできません。

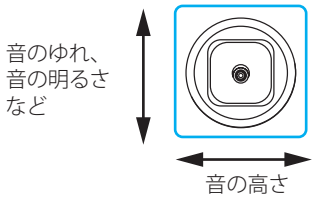
ディスプレイ上の項目を選ぶ、値を変える

ディスプレイ上で設定する項目を選んだり、値を変更したりするときは、次のボタンやダイヤルを使います。



1. **▲ボタン、▼ボタン**
   ディスプレイ内のカーソル（黒い帯）を上下に移動させます。カーソルで選んだ項目はダイヤルなどで変更できます。
2. **ダイヤル**
   番号や値などの数値を変更します。
   右に回すと数値が大きく、**左に回す**と小さくなります。
3. **＋ボタン、－ボタン**
   - ボタンを**1回押す**と、ひとつ上または下の数値になります。
   - ボタンを**押し続ける**と、数値が連続して変わります。
4. **CATEGORY ◀、▶（CANCEL、ENTER）ボタン**
   パフォーマンス・モードおよびシーケンサー・モード：
   サウンド・セットやスタイルを選ぶときに押すと、グループ分けされたカテゴリーの先頭の設定が選ばれます。
   セッティング・モードおよびメディア・モード：
   ディスプレイに表示されている機能を実行したり、キャンセルしたりします。

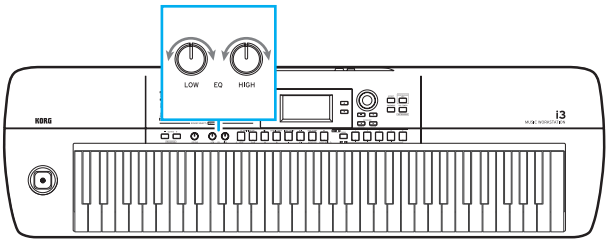
ジョイスティックを使う



- **左右に動かすと、鍵盤パートのピッチ（音の高さ）が変化します。**
  Tip: セッティング・モードの「PitchBend Range」で、ピッチの幅を設定できます（26ページ）。
  Note: サウンドによっては、ピッチが変化しないことがあります。
- **上下に動かすと、鍵盤パートの音に変化をつけます。**
  Tip: 選んだサウンド・セットによって、上下に動かしたときの音の変化が異なります。

音質を調節する（イコライザー）

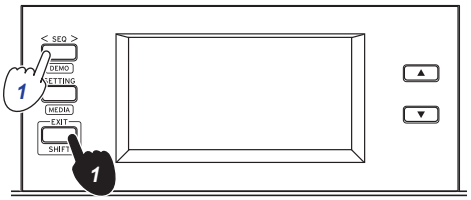
イコライザーを使うと、i3の音をお好みの音質に調節することができます。HIGHノブを使って高音域、LOWノブを使って低音域を調節します。この操作は、演奏中にも行えます。



デモ・ソングを聴く

i3にはデモ・ソングが3曲内蔵されています。デモ・ソングを聴いて、i3のサウンドを確認してみましょう。

1. **EXIT(SHIFT)ボタンを押しながらSEQボタンを押します。**
   デモ・ソングが順番に再生されます。再生中にダイヤルまたは＋ボタン、－ボタンを操作すると、他のデモ・ソングに変更できます。



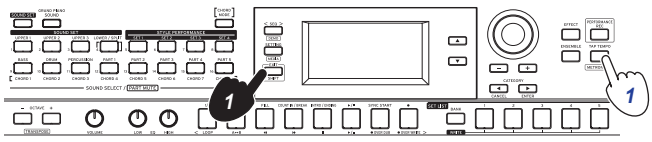
2. **終了するときは、EXIT(SHIFT)ボタンを押します。**

メトロノームを鳴らす

演奏時のガイドとして、メトロノームを鳴らすことができます。

Tip: メトロノームは現在のテンポの設定で鳴ります。テンポを変更する方法は「テンポを変更する」（17ページ）を参照してください。

1. **EXIT (SHIFT) ボタンを押しながら、TAP TEMPO（METRONOME）ボタンを押します。**
   メトロノームが鳴り始めます。

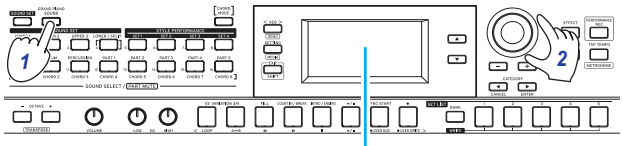


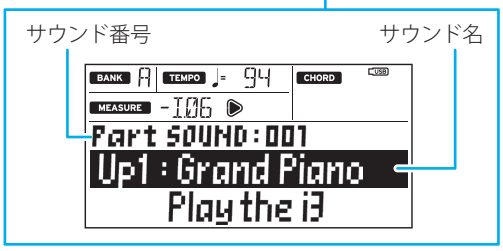
2. **メトロノームを止めるには、もう一度EXIT (SHIFT) ボタンを押しながら、TAP TEMPO（METRONOME）ボタンを押します。**
   Tip: メトロノームの音量は、SETTINGモードの「Metronome Level」で変更することができます（27ページ）。

鍵盤を弾く

サウンドを選ぶ

1. **GRAND PIANO/SOUNDボタンを押します。**
   サウンド・セット001のグランド・ピアノのサウンドを全鍵で演奏できます。サウンドの選択画面が表示されます。





Tip: GRAND PIANO/SOUNDボタンを押すと、サウンド・セット001のアッパー1（Up1: Grand Piano）のみオン、その他のパートがオフ（ミュート）に設定されます。

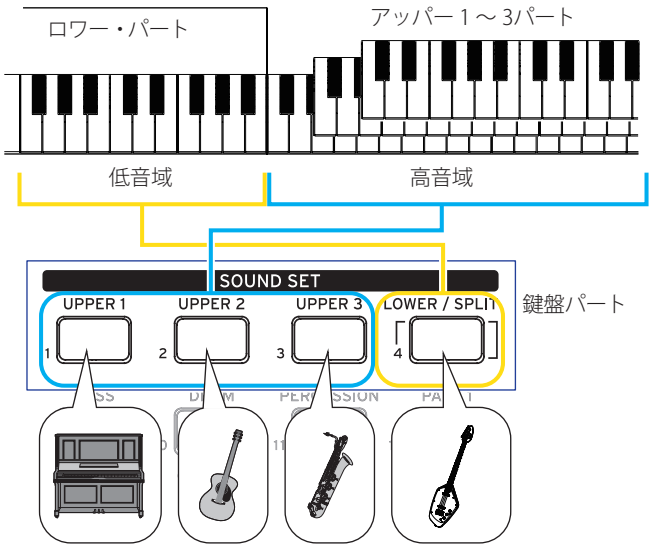
Tip: サウンドが変更可能なパートは、ボタンがオレンジで点滅します。

2. **ダイヤル、＋ボタン、－ボタン、CATEGORY ◀、▶ボタンで演奏したいサウンドを選びます。**
   CATEGORY ◀、▶ボタンを押すと、サウンドがカテゴリーごとに切り替わります。

サウンド・セットを選ぶ

サウンド・セットは鍵盤演奏のための**サウンド**の集まりです。i3には200種類のサウンド・セットがあり、17のカテゴリーに分かれています。サウンド・セットを選んで演奏してみましょう。

それぞれのサウンド・セットには、ピアノ、ストリングス、シンセサイザー、ドラムなどのサウンドが、4つのパート（ロワー、アッパー1～3）に割り当てられています。これらの4パートをまとめて**鍵盤パート**と呼びます。



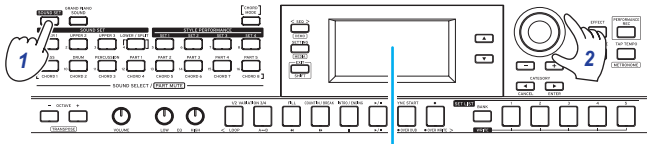
鍵盤パートは、個別にオフ（ミュート）にすることができます（13ページ）。各パートの状態は、選んだサウンド・セットによって変わります。

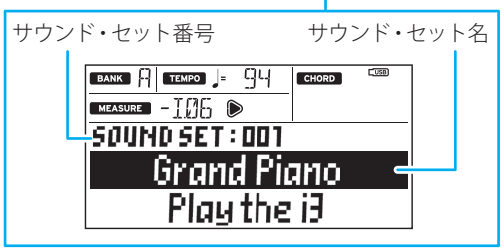
- **アッパー・パート**
  鍵盤の高音域側で演奏するパートです。3つのパート（アッパー1～3）があり、すべてのパートがオンのときは、3つのサウンドを重ねて演奏できます。
- **ロワー・パート**
  鍵盤の低音域側で演奏するパートです。ロワー・パートをオフ（スプリット機能オフ）にすると、鍵盤全域でアッパー・パートのサウンドを演奏できます（13ページ）。

Tip: スプリット・ポイント（ロワーとアッパー1～3が分かれる位置）は、セッティング・モードの「Split Point」（26ページ）で設定することができます。

Tip: サウンド・セットおよびサウンドのリストは、「ボイス・ネーム・リスト」（PDF）を参照してください。

1. **SOUND SETボタンを押します。**
   サウンド・セットの選択画面が表示されます。
   サウンド・セットが変更できるときは、SOUND SETボタンが赤で点灯します。





2. **ダイヤル、＋ボタン、－ボタン、CATEGORY ◀、▶ボタンで演奏したいサウンド・セットを選びます。**
   CATEGORY ◀、▶ボタンを押すと、サウンド・セットがカテゴリーごとに切り替わります。

   GRAND PIANO/SOUNDをオンにした後に、SOUND SETボタンを押すと、アッパー1以外はミュートされたままになります。元のサウンド・セットの設定に戻すときは、サウンド・セットを選び直してください。

3. **鍵盤を弾いてサウンドを確認します。**
   発音している鍵盤パートは、ボタンがオレンジで点灯します。

サウンド・セットの設定を変える

選んだサウンド・セットは、自由に設定を変えることができます。好みの設定になるよう、サウンド・セットの内容を変えてみましょう。

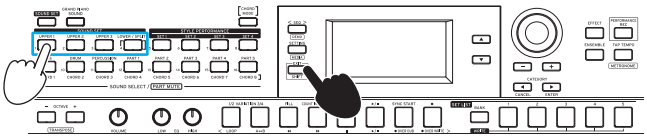
Tip: 電源を切ると、変更内容は元の状態に戻ります。設定を残しておきたい場合は、セット・リストに保存してください（16ページ）。

鍵盤パートのオン/オフ、音量、サウンドを変更する

サウンド・セットの鍵盤パートは、パートごとにオン、オフや音量を変更したり、サウンドを変更したりすることができます。

パートをオフにする（ミュート）

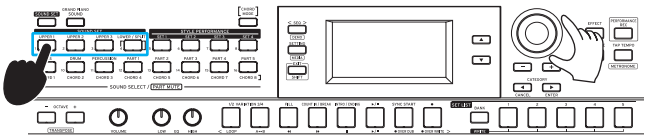
- **EXIT(SHIFT)ボタンを押しながら、オフにしたいパートのボタンを押します（ボタンが消灯）。**
  もう一度EXIT(SHIFT)ボタンを押しながらミュートしたパートのボタンを押すと、オンに戻ります（ボタン点灯）。



Tip: LOWER/SPLITボタンを操作すると、スプリット機能のオン、オフも同時に変わります。

音量を調節する

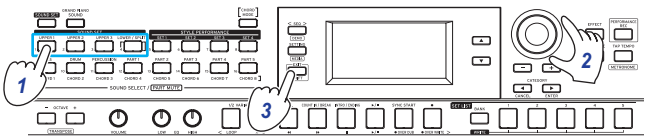
- **音量を調節したいパートのボタンを押しながら、ダイヤルを回します。**
  ディスプレイにそのパートの音量が表示されます。



Tip: 鍵盤パートと自動伴奏（伴奏パート）の音量バランスを変更することもできます（20ページ）。

サウンドを変更する

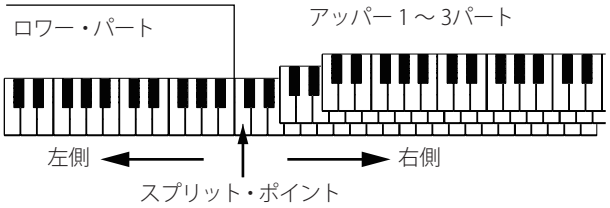
1. **サウンドを変更したいパートのボタンを押します（ボタンが点滅）。**
   ディスプレイにそのパートのサウンド名が表示されます。



2. **ダイヤル、＋ボタン、－ボタン、CATEGORY ◀、▶ボタンで演奏したいサウンドを選びます。**
   CATEGORY ◀、▶ボタンを押すと、サウンドがカテゴリーごとに切り替わります。
3. **サウンド・セットの選択画面に戻るときは、EXIT (SHIFT)ボタンを押します。**

左右の音を変える（スプリット）

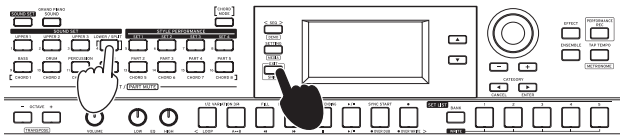
サウンド・セットは、高音域側のアッパー・パートと低音域側のロワー・パートに分けて演奏することができます（スプリット機能）。必要であれば、スプリット機能をオフにしたり、アッパー・パートとロワー・パートが分かれる位置（スプリット・ポイント）を変更したりできます。



Tip: スプリット・ポイントは、セッティング・モードの「Split Point」（26ページ）で設定することができます。

スプリット機能をオンにする

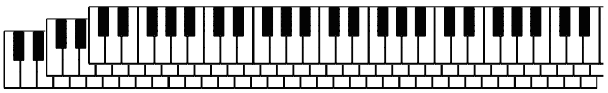
- **EXIT（SHIFT）ボタンを押しながらLOWER/SPLITボタンを押して、緑で点灯させます。**



ロワー・パートがオン（ミュート解除）になり、音域を分けて鍵盤を演奏できます。ロワー・パートは演奏とコード認識兼用の音域になります。

スプリット機能をオフにする

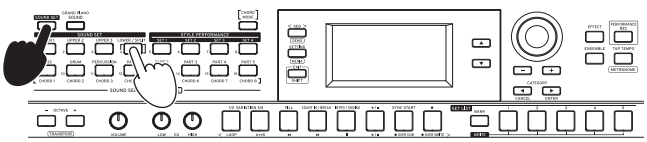
- **EXIT（SHIFT）ボタンを押しながらLOWER/SPLITボタンを押して、ボタンを消灯させます。**
  ロワー・パートがオフ（ミュート）になり、鍵盤全域でアッパー・パートのサウンドを演奏できます。鍵盤全域がコード認識兼用の音域になります。



ロワー・パートをコード指定専用の音域にする（スプリット・ホールド）

スプリット・ホールドがオンになると、ロワー・パートの音域はスタイル（自動伴奏）のコード指定専用になり、鍵盤を演奏してもサウンドが鳴らなくなります。

- **SOUND SETボタンを押しながらLOWER/SPLITボタンを押します（赤で点灯）。**
  ディスプレイに"Split Hold "On""と表示されます。
  もう一度SOUND SETボタンを押しながらLOWER/SPLITボタンを押すと、スプリット・ホールドがオフになります。



Tip: スプリット・ホールドの設定は電源をオフにするまで有効です。

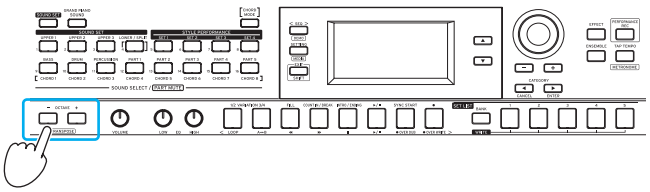
Tip: スタイル（自動伴奏）については「自動伴奏（スタイル）に合わせて弾く」（17ページ）を参照してください。

オクターブを変更する

鍵盤パートの音域を1オクターブ単位で上下させます。±2オクターブの範囲で設定できます。

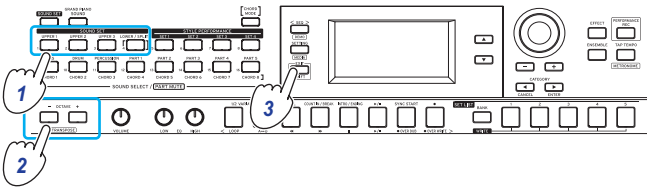
アッパー・パート全体のオクターブを変える

- **オクターブを下げる**：OCTAVE －ボタンを押します（緑で点灯）。2度押すと、2オクターブ下がります（赤で点灯）。
- **オクターブを上げる**：OCTAVE ＋ボタンを押します（緑で点灯）。2度押すと、2オクターブ上がります（赤で点灯）。



パートごとにオクターブを変える

1. **変更したい鍵盤パートのボタンを押します。**
   押したボタンがオレンジで点滅します。

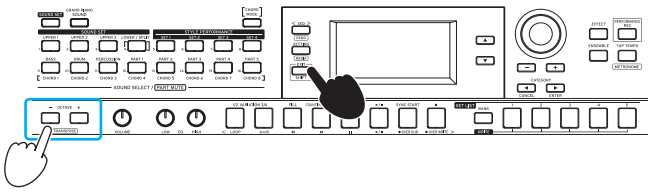


2. **OCTAVE ＋ボタンまたはOCTAVE －ボタンを押してオクターブを変更します。**
3. **サウンド・セットの選択画面に戻るときは、EXIT (SHIFT)ボタンを押します。**

キーを変更する（トランスポーズ）

鍵盤で演奏するキー（調）を、半音単位で変更します。設定中はディスプレイに設定値が表示されます。

- **キーを下げる**：EXIT（SHIFT）を押しながら、OCTAVE －ボタンを押します。
- **キーを上げる**：EXIT（SHIFT）を押しながら、OCTAVE ＋ボタンを押します。
- **キーを元の設定に戻す**：EXIT（SHIFT）を押しながら、OCTAVE ＋ボタンとOCATAVE－ボタンを同時に押します。



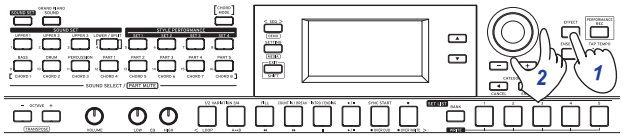
鍵盤パートのエフェクトを選ぶ

鍵盤パートでは2種類のエフェクト（エフェクト1、2）を同時に使用することができ、サウンド・セットごとにあらかじめ設定されています。
エフェクトの種類や効果のかかり方は、好みに合わせて変更できます。

種類を変える

エフェクト1、2に設定されている、エフェクトの種類を変更します。

1. **EFFECTボタンを押します。**
   エフェクト1が設定できます。エフェクト2を設定したい場合は、CATEGORY ▶ボタンを押してエフェクト2の設定画面を表示します。



2. **ダイヤルまたは＋ボタン、－ボタンでエフェクトの種類を選びます。**
   "Default"を選んだ場合は、サウンド・セットにあらかじめ設定されているエフェクトが選ばれます。
3. **EXIT（SHIFT）ボタンを押して、サウンド・セットまたはサウンドの選択画面に戻ります。**

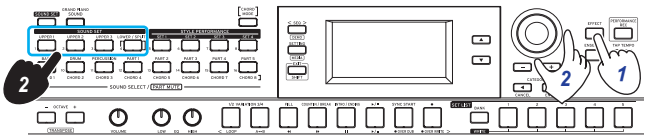
Note: エフェクト3、4は自動伴奏（スタイル）専用のエフェクトです。設定を変えても鍵盤パートのエフェクトは変わりません。

Tip: エフェクト・タイプは、「ボイス・ネーム・リスト」（PDF）を参照してください。

効果のかかり方を変える

エフェクト1、2のかかり方（エフェクトのセンド・レベル）を変更します。かかり方の設定は、鍵盤パート（ロワー、アッパー 1 ～ 3）ごとに設定できます。

1. **EFFECTボタンを押します。**
   エフェクト1が設定できます。エフェクト2を設定したい場合は、CATEGORY ▶ボタンを押してエフェクト2の設定画面を表示します。



2. **設定したい鍵盤パートのボタンを押しながら、ダイヤルを回してかかり方を変更します。**

   Note: エフェクトの種類によってはあまり効果が変わらないものもあります。

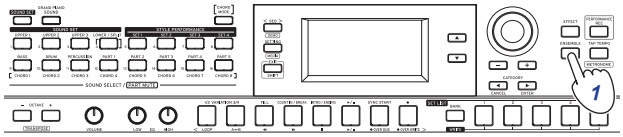
3. **EXIT（SHIFT）ボタンを押して、サウンド・セットまたはサウンドの選択画面に戻ります。**

メロディーにハーモニーを付ける（アンサンブル）

コードに合わせて弾いたメロディーにハーモニーを付けます（アンサンブル機能）。選択されたスタイルによって、ハーモニーの付き方が変わります。

Tip: ロワー・パートをコード指定専用の音域（スプリット・ホールドをオン）にしている場合でも、ハーモニーが付きます。

1. **ENSEMBLEボタンを押します（ボタンが点灯）。**



2. **コード認識音域でコードを、右手でメロディーを弾きます。**
   ディスプレイの「CHORD」で現在のコードを確認できます。終了したい場合は、もう一度ENSEMBLEボタンを押します（ボタンが消灯）。

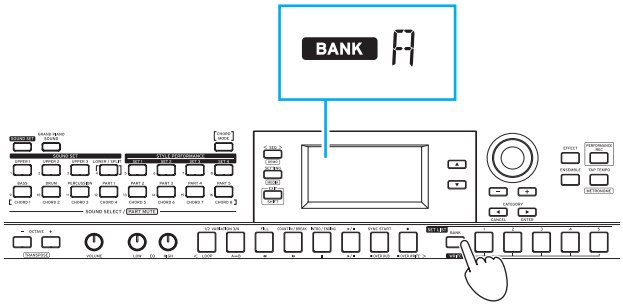
   Tip: サウンド・セットを変更すると、アンサンブル機能はオフになります。

セット・リストを使う

お気に入りの設定(サウンド・セット、スタイル、テンポやエフェクトなど)は、セット・リストとして一括保存できます。そしてお気に入りの設定をすぐに呼び出すことができます。セット・リストには10個のバンク(A～J)があり、それぞれ5つ(合計50種類)の設定を保存できます。バンクA～Cの1～5には、お勧めのセット・リストがあらかじめ保存されています。

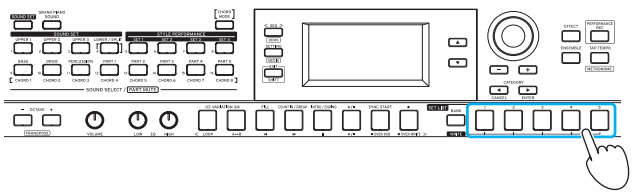
セット・リストを呼び出す

1. BANK(WRITE)ボタンを何回か押して、バンクを選びます。
ボタンを押すたびに次のバンクが選ばれます。選んでいるバンクはディスプレイで確認できます。



Tip: EXIT(SHIFT)ボタンを押しながらボタンを押すと、逆の順番でバンクを選択できます。

2. SET LIST 1～5ボタンを押してセット・リストを選びます。



Tip: 電源を入れた直後は、バンクAの1が選ばれます。

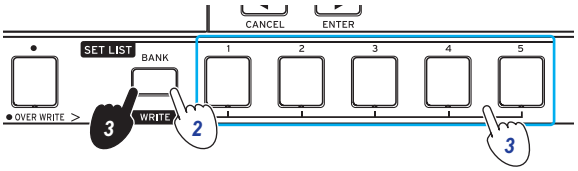
セット・リストを保存する(WRITE)

電源を切ると、変更内容は元の状態に戻ります。サウンド・セットやスタイルを自分の好みに設定した場合は、セット・リストに保存することをお勧めします。

1. i3をお好みの設定にします。

2. BANK(WRITE)ボタンを押して、保存先のバンクを選びます。
バンクA～Cに保存すると、あらかじめ保存されたセット・リストが上書きされます。

- **バンクA～C:** 保存済み(プリロード)
- **バンクD～J:** 初期設定



3. BANK(WRITE)ボタンを押しながらSET LIST 1～5ボタンの1つを押します。
設定が選んだセット・リストに上書き保存され、ボタンが点灯します。

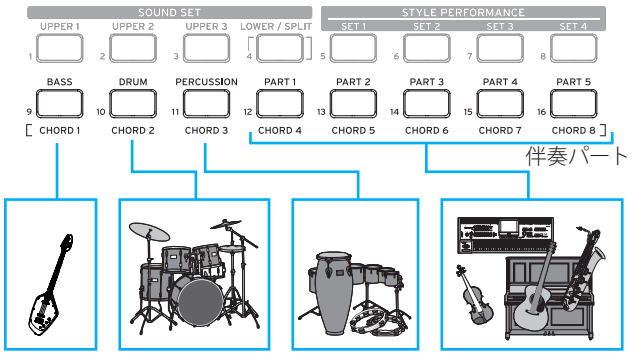
セット・リストには以下の設定が保存されます。

- **スタイル**
  選択しているスタイル番号、スタイル・パフォーマンス・セットの番号、鍵盤パートと伴奏パートの音量バランス、伴奏パターンの変化(バリエーション、イントロ)
- **サウンド・セット**
  選択しているサウンド・セット番号、オクターブ設定
- **パート**
  各パートのサウンド、音量、ミュート、オクターブ設定
- **その他**
  エフェクトの設定(エフェクトの種類とかかり方)、テンポ、アンサンブル機能状態

自動伴奏（スタイル）に合わせて弾く

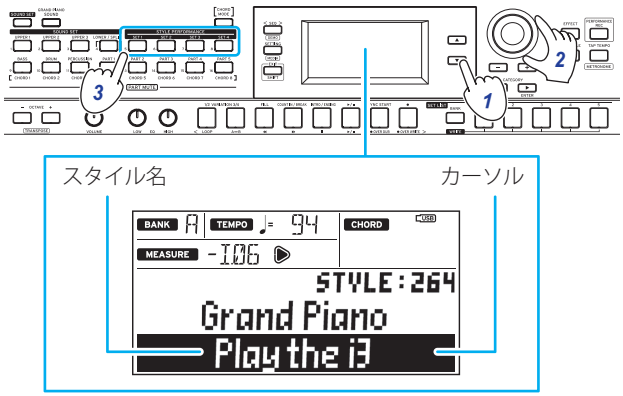
スタイルを選んで演奏する

スタイルは、指定したコードに合わせて自動伴奏をつける機能です。i3には、さまざまなジャンルの伴奏パターンが収められています。スタイルで使用されるサウンドは8つのパート（ベース、ドラム、パーカッション、その他のパート1～5）で構成されており、これらを**伴奏パート**といいます。
i3には270種類のスタイルがあり、16のカテゴリーに分かれています。スタイルを選んで自動伴奏を再生してみましょう。



それぞれのスタイルには最適なサウンド・セット（スタイル・パフォーマンス・セット）と8種類のコード（CHORD MODE）があらかじめ設定されています。

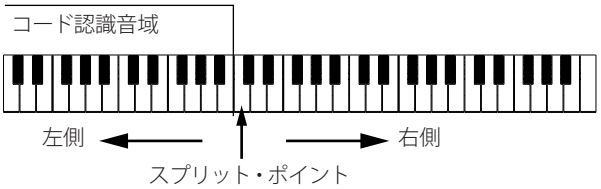
1. **▼ボタンを押して、ディスプレイ内のカーソルをスタイル名に移動させます。**

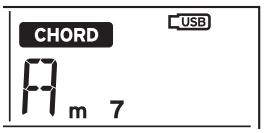


2. **ダイヤルまたは＋ボタン、－ボタン、CATEGORY ◀、▶ボタンでスタイルを選びます。**
CATEGORY ◀、▶ボタンを押すと、スタイルが音楽ジャンルごとに切り替わります。

3. **STYLE PERFORMANCEボタン（SET 1～SET 4）を押して、あらかじめスタイルに設定されたサウンド・セット（スタイル・パフォーマンス・セット）を呼び出します。**
Tip: スタイル・パフォーマンス・セットのそれぞれのサウンドは、好みのものに変更することができます（13ページ）。

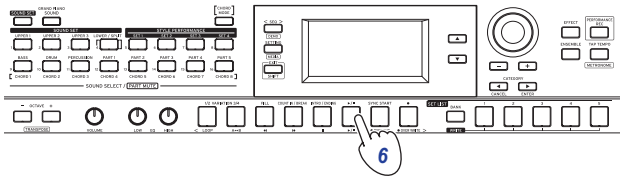
4. **コード認識音域でコードを弾きます。**
ディスプレイには認識したコード名が表示されます。コードは、ボタンを使って指定することもできます（18ページ）。





- **LOWER/SPLITボタンが緑で点灯しているとき：**
鍵盤の左側（ロワー・パート）が演奏用とコード認識兼用の音域になります。
鍵盤全体をコード認識音域にするときは、EXIT（SHIFT）ボタンを押しながらLOWER/SPLITボタンを押して消灯させます。
- **ロワー・パートを鳴らさずにコードを変更するとき：**
SOUND SETボタンを押しながらLOWER/SPLITボタンを押して、ボタンを赤く点灯させます。ロワー・パートがコード認識専用の音域になります。
Tip: 鍵盤の音域設定（スプリット機能）については、「左右の音を変える（スプリット）」（13ページ）を参照してください。スプリット・ポイント（鍵盤の音域が分かれる位置）は、セッティング・モードの「Split Point」（26ページ）で設定することができます。
Tip: コードの認識方法は、セッティング・モードの「Chord Detect」で変更することができます（26ページ）。

5. **▶/■ボタンを押します。**
自動伴奏が開始されます。コードを変更すると、それに合わせて伴奏が追従します。鍵盤の右側でメロディーを弾いてみましょう。
発音している伴奏パートは、ボタンがオレンジで点灯します。

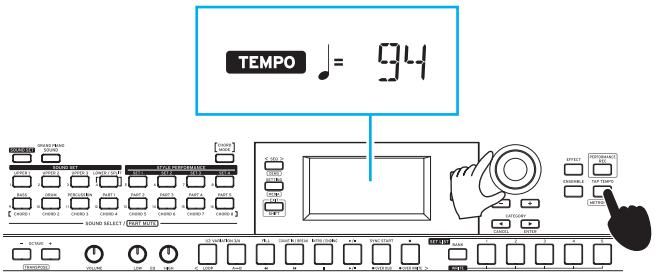


Tip: i3が認識するコードは「コード認識一覧」（32ページ）を参照してください。

6. **自動伴奏を停止するときは、▶/■ボタンを押します。**

テンポを変更する

- **ダイヤルで変更する**
TAP TEMPOボタンを押しながら、ダイヤルを回します。

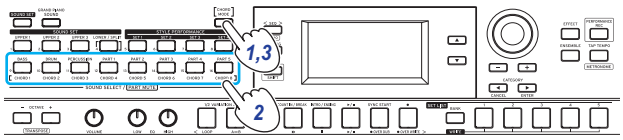


- **ボタンを繰り返し押して設定する（タップ・テンポ）**
設定したいテンポでTAP TEMPOボタンを何度か押します。
Tip: テンポが変更されたとき、自動的に再生を開始することもできます（タップ・オート・スタート）。有効にするには、セッティング・モードの「Tap Auto Start」（26ページ）を、"Enable"に設定してください。

- **テンポを固定する(テンポ・ロック)**
  スタイルを変更するとき、テンポを固定したまま切り換えることができます。有効にするには、セッティング・モードの「Style Tempo Lock」(26ページ)を、"On"に設定してください。
  有効なときは、テンポの設定値の右にテンポ・ロック・マーク🔒が点灯します。

鍵盤を弾かずにコードを変更する(コード・モード)

スタイルのコードはボタンを使って簡単に変更することができます。



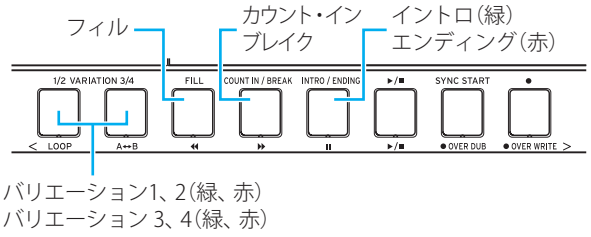
1. **自動伴奏の再生中にCHORD MODEボタンを押して点灯させます。**
2. **CHORD 1～8ボタン(BASS、DRUM、PERCUSSI ON、PART 1～5)を押してコードを指定します。**
3. **コード・モードを終了するときは、CHORD MODEボタンを押して消灯させます。**

Note: コードはスタイルごとに固定です。ボタンに割り当てられているコードの設定を変更することはできません。

伴奏パターンに変化をつける

イントロを入れる、バリエーションを設定する

スタイルによる自動伴奏は、アレンジ(バリエーション)を変えたり、イントロやエンディング、フィルインなどの変化をつけることができます。



1. **使用したいスタイルを選びます(17ページ)。**
2. **VARIATIONボタン1/2または3/4を押して、スタイルのバリエーションを選びます。**
   ボタンを押すたびに、バリエーション1と2、バリエーション3と4が切り替わます。

バリエーション	ボタン	ボタンの状態	内容
1	VARIATION 1/2	緑で点灯	シンプル
2		赤で点灯	やや複雑
3	VARIATION 3/4	緑で点灯	複雑
4		赤で点灯	高度で複雑

番号が大きくなるほど、より複雑なアレンジになります。

3. **INTRO/ENDINGボタンを押して、イントロを選びます。**
   ボタンを押すたびに、イントロ1と2が切り替わります。

イントロまたはエンディング	ボタンの状態	内容
1	緑で点灯	コード・チェンジを含む
2	赤で点灯	コードを固定

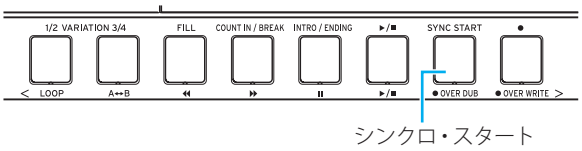
Tip: INTRO/ENDINGボタンは、演奏開始前に押すとイントロの選択、演奏中に押すとエンディングの選択になります。

4. **▶/■ボタンを押します。**
   イントロが始まり、続いてバリエーションの伴奏が続きます。
5. **左手でコード、右手でメロディーを弾きます。**
6. **VARIATIONボタン、FILLボタン、COUNT IN/BREAKボタンを押して、変化を付けながら演奏しましょう。**
7. **演奏を終えるときは、INTRO/ENDINGボタンを押して、エンディングを選びます。**
   ボタンを押すたびに、エンディング1(緑で点灯)と2(赤で点灯)が切り替わります。

   エンディングの後、自動伴奏が停止します。

シンクロ・スタート機能を使う

鍵盤を弾くのと同時に自動伴奏を開始することができます(シンクロ・スタート)。



1. **自動伴奏が停止しているときに、SYNC STARTボタンを押します。**
   シンクロ・スタートがオンになります。待機中は、ボタンが点滅します。
2. **コード認識音域でコードを弾いて、自動伴奏を開始します。**
   ボタンが点灯にかわります。

   Tip: CHORD 1～8ボタンでスタイルのコードを指定した場合も、自動伴奏が開始されます。
3. **自動伴奏を停止するときは、▶/■ボタンを押します。**

スタイルの設定を変える

選んだスタイルは、自由に設定を変えることができます。好みの設定になるよう、スタイルの内容を変えてみましょう。

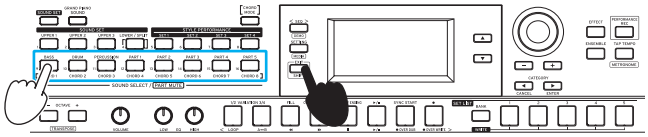
電源を切ると、変更内容は元の状態に戻ります。設定を残しておきたい場合は、セット・リストに保存してください（16ページ）。

伴奏パートのオン/オフ、音量、サウンドを変更する

スタイルに含まれる伴奏パートは、パートごとにオン、オフや音量を変更したり、サウンドを変更したりすることができます。

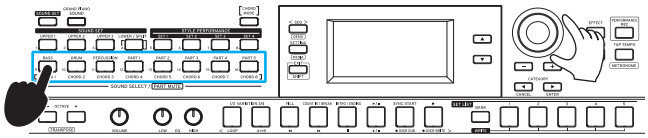
パートをオフにする（ミュート）

- **EXIT（SHIFT）ボタンを押しながら、オフにしたいパートのボタンを押します（ボタンが消灯）。**
  もう一度EXIT(SHIFT)ボタンを押しながらミュートしたパートのボタンを押すと、オンに戻ります（ミュート解除）。



音量を調節する

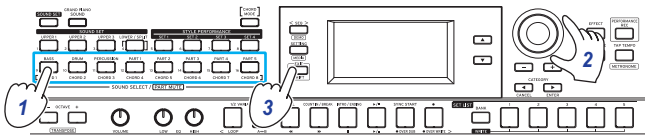
- **音量を調節したいパートのボタンを押しながら、ダイヤルを回します。**
  ディスプレイにそのパートの音量が表示されます。



Tip: 鍵盤パートと伴奏パートの音量バランスを変更することもできます（20ページ）。

サウンドを変更する

1. **サウンドを変更したいパートのボタンを押します（ボタンが点滅）。**
   ディスプレイにそのパートのサウンド名が表示されます。



2. **ダイヤルまたは＋ボタン、－ボタンでサウンドを選びます。**
3. **サウンド・セットの選択画面に戻るときは、EXIT (SHIFT)ボタンを押します。**

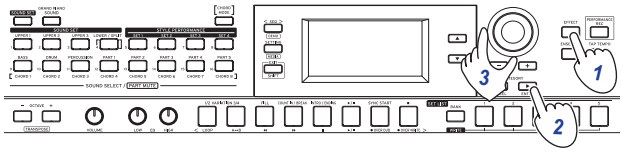
伴奏パートのエフェクトを選ぶ

伴奏パートでは2種類のエフェクト（エフェクト3、4）を同時に使用することができ、スタイルごとにあらかじめ設定されています。
エフェクトの種類や効果のかかり方は、好みに合わせて変更できます。

種類を変える

エフェクト3、4に設定されている、エフェクトの種類を変更します。

1. **EFFECTボタンを押します。**



2. **CATEGORY ▶ボタンを押して、エフェクト3または4の設定画面を呼び出します。**
3. **ダイヤルまたは＋ボタン、－ボタンでエフェクトの種類を選びます。**
   "Default"を選んだ場合は、スタイルにあらかじめ設定されているエフェクトが選ばれます。
4. **EXIT（SHIFT）ボタンを押して、サウンド・セットまたはサウンドの選択画面に戻ります。**

Note: エフェクト1、2は鍵盤パート専用のエフェクトです。設定を変えても伴奏パートのエフェクトは変わりません。

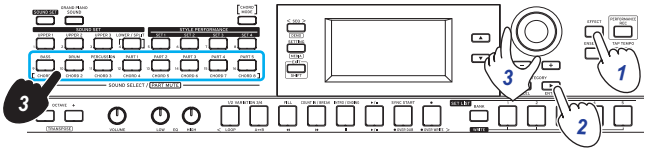
Tip: エフェクト・タイプは、「ボイス・ネーム・リスト」（PDF）を参照してください。

効果のかかり方を変える

エフェクト3、4のかかり方（エフェクトのセンド・レベル）を変更します。かかり方の設定は、伴奏パート（ベース、ドラム、パーカッション、その他のパート1～5）ごとに設定できます。

Note: エフェクトの種類によってはあまり効果が変わらないものもあります。

1. **EFFECTボタンを押します。**

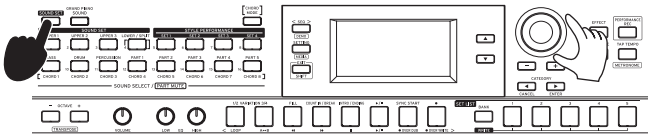


2. **CATEGORY ▶ボタンを押して、エフェクト3または4の設定画面を呼び出します。**
3. **設定したい伴奏パートのボタンを押しながら、ダイヤルを回してかかり方を変更します。**
4. **EXIT（SHIFT）ボタンを押して、サウンド・セットまたはサウンドの選択画面に戻ります。**

鍵盤パートと伴奏パートの音量バランスを調節する

鍵盤パートと伴奏パートの音量バランスは、好みに合わせて調節することができます。

- **鍵盤パートの音量を小さくする：**SOUND SETボタンを押しながらダイヤルを左に回します。
- **伴奏パートの音量を小さくする：**SOUND SETボタンを押しながらダイヤルを右に回します。



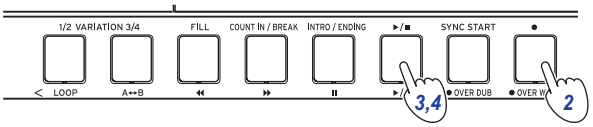
演奏を録音する

自動伴奏に合わせて弾いた演奏は、MIDIデータ（ユーザー・ソング）として録音することができます。また、USBメモリーを接続すれば、簡単な操作でオーディオ・データ（WAV）として録音することも可能です。

MIDIデータとして録音する

i3には、最大999曲のユーザー・ソングを録音することができます。

1. **パフォーマンス・モードで録音したいサウンド・セットとスタイルを選び、パートやテンポなどの設定を変更します。**
   鍵盤パートや伴奏パートの設定もユーザー・ソングに録音されます。
   Note: ミュートしたパートは録音されません。録音するパートはミュートを解除してください（13、19ページ）。
2. **● ボタンを押して、録音待機状態にします（ボタンが赤で点灯）。**
   ▶/■ボタンが点滅します。



3. **▶/■ボタンを押して点灯させ、録音を開始します。**
   左手でコード、右手でメロディーを弾いてください。伴奏パターンにフィルやブレイクをつけてみましょう（18ページ）。
4. **録音を停止するには▶/■ボタンを押して消灯させます。**
   録音された内容は、ユーザー・ソングとして自動的に保存されます。
   Tip: ユーザー・ソングは、「UserSong」という名前で保存されます。ソング名の後ろには、録音した順番に番号が付けられます。
   Tip: ユーザー・ソングは、SMF(スタンダードMIDIファイル)に変換することができます。詳しくはメディア・モードの「UserSong Convert」（29ページ）を参照してください。
   Tip: 録音したユーザー・ソングを削除する方法は、「ユーザー・ソングを削除する」（24ページ）を参照してください。
   Tip: 録音した演奏を再生する方法は、「ソングを再生、編集する」（22ページ）を参照してください。ユーザー・ソングは簡単な編集を行うこともできます。

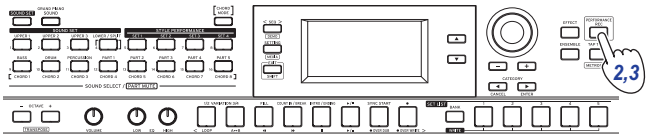
オーディオ・データとして録音する（パフォーマンス・レコーディング）

i3を使った演奏は、モードの状態にかかわらず、いつでもオーディオ・データ（WAVファイル）として録音できます。

Note: 録音するにはUSBメモリーを接続する必要があります。

Tip: オーディオ・データとして録音するときは、リア・パネルのAUDIO IN端子から入力された音声も一緒に録音されます。

1. **USBメモリーを接続します（8ページ）。**
2. **PERFORMANCE RECボタンを押して（赤で点灯）録音を開始し、演奏を行ってください。**



3. **録音を停止するにはPERFORMANCE RECボタンを押して消灯させます。**
   録音されたオーディオ・データは、「AudioSong」という名前でUSBメモリーに保存されます。
   Note: 録音開始から1時間経過すると、自動的に録音が終了します。
   Note: 使用するUSBメモリーによっては、正しく録音できない場合があります。詳しくはコルグ・ウェブサイトを参照してください。

ソングを再生、編集する

再生できるソング（音楽ファイル）

i3がシーケンサー・モードのときは、以下のソングを再生できます。

ユーザー・ソング

演奏を録音したMIDIデータです。録音した後で簡単な編集をすることができます（23ページ）。

Tip: ユーザー・ソングは、SMFに変換してUSBメモリーに保存することができます（29ページ）。

SMF（スタンダードMIDIファイル）

コンピューターなどで扱える汎用のMIDIデータです。
SMFをUSBメモリーに保存すれば、i3で再生することができます。

対応フォーマット：SMFフォーマット0、1

WAV

非圧縮のオーディオ・データです。コンピューターなどを使ってUSBメモリーにデータをコピーすると、i3で再生することができます。

対応サンプリング周波数：44.1kHz

Tip: PERFORMANCE RECボタンを使って録音されたWAVファイル（21ページ）も再生することができます。

MP3

一般的な圧縮オーディオ・データです。コンピューターなどを使ってUSBメモリーにデータをコピーすると、i3で再生することができます。

対応サンプリング周波数：44.1kHz（VBR対応）

SMF、WAV、MP3ファイルを再生するには

あらかじめUSBメモリーにデータをコピーします。以下の手順で再生したいデータをコピーしてください。

1. **コンピューターを使ってUSBメモリーのルート・ディレクトリーにi3フォルダーを作ります。**

   Tip: USBメモリーをi3でフォーマット（初期化）すると、自動的にi3フォルダーが作成されます。

2. **i3フォルダーの直下に再生したいファイルをコピーします。**
   USBメモリーを接続してシーケンサー・モードに入ると、i3フォルダーにあるファイルがソングとして選択できるようになります。

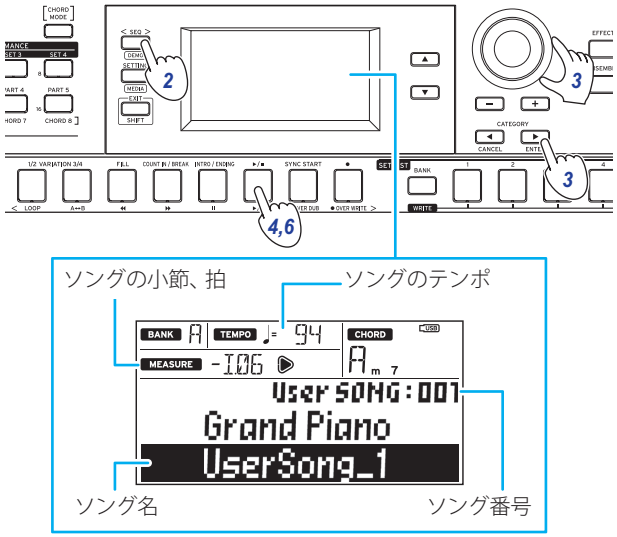
ソングを再生する

ソング再生中は鍵盤を弾くことができます。さまざまなソングを再生して、一緒に演奏してみましょう。

1. **USBメモリーに保存したソングを再生したい場合は、データの入ったUSBメモリーを接続します。**

   Tip: USBメモリーの接続方法は、「USBメモリーを使うときは」（8ページ）を参照してください。

2. **SEQボタンを押します。**
   ボタンが点灯し、シーケンサー・モードに入ります。ディスプレイにはソング番号とソング名が表示されます。



   Tip: ユーザー・ソングやSMFが選ばれているときは、シーケンサー・モードに入ると選択中のソングのテンポに変わります。パフォーマンス・モードに戻ると、元の設定に戻ります。

3. **カテゴリー・ボタンでソングの種類を指定し、ダイヤル等でソングを選びます。**
   選択できるソングの種類は以下のとおりです。
   User SONG: パフォーマンス・モードで録音したユーザー・ソング（MIDIデータ）
   USB Rec WAV SONG: PERFORMANCE RECボタンを使って録音したWAVファイル（オーディオ・データ）
   USB WAV SONG: USBメモリーに保存されたWAVファイル（オーディオ・データ）
   USB MP3 SONG: USBメモリーに保存されたMP3ファイル（オーディオ・データ）
   USB SMF SONG: USBメモリーに保存されたSMF（MIDIデータ）
   Demo SONG: i3内蔵のデモ・ソング（MIDIデータ）

4. **▶/■ボタンを押して、ソングを再生します。**

5. **ソングに合わせて鍵盤を弾いてみましょう。**

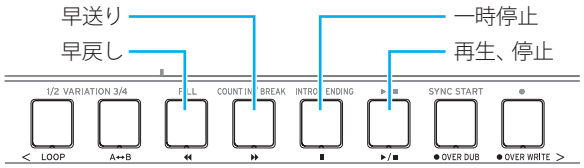
   Tip: サウンド・セットを変更する方法は「サウンド・セットを選ぶ」（12ページ）を参照してください。SMF、デモ・ソングは、サウンド・セットで演奏できません。

   Tip: テンポを変更する方法は「テンポを変更する」（17ページ）を参照してください。

6. **ソングの再生を停止するときは、▶/■ボタンを押します。**

いろいろな方法で再生する

ソングを早戻し、早送り、一時停止する



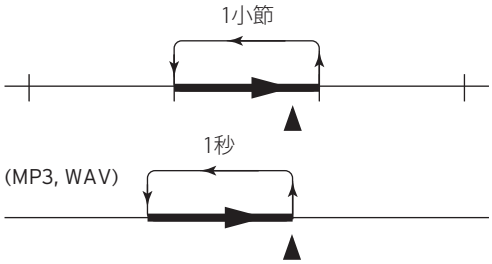
- ◀◀ボタン：1回押すと1小節前（MP3、WAVファイルでは2秒前）に戻ります。
  ボタンを長押しすると、押している間早戻しします。
- ▶▶ボタン：1回押すと1小節先（MP3、WAVファイルでは2秒先）に進みます。
  ボタンを長押しすると、押している間早送りします。
- ❚❚ボタン：再生時に押すと一時停止します。もう一度押すと、停止していた位置から再生します。

ソングの一部をループ再生する

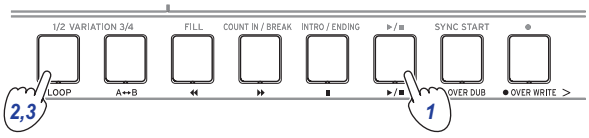
ソングの一部分を指定して、繰り返し再生（ループ再生）します。

■ クイック・ループ再生

LOOPボタンを押すと、その小節をループ再生します。（MP3、WAVファイルでは、ループ・ボタンを押した位置から1秒前に戻り、ループ再生します。）



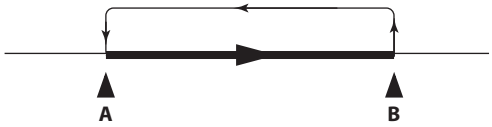
1. ▶/■ボタンを押して、ソングを再生します。



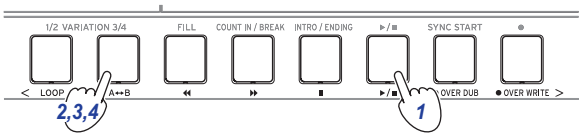
2. 再生を折り返す小節（位置）で、LOOPボタンを押します（ボタン点灯）。
   Tip: ループ再生の長さは、最大9小節前（MP3、WAVファイルでは9秒前）まで延ばすことができます。ループ再生中にダイヤルを回して長さを設定します。
3. ループ再生を解除するにはLOOPボタンを押します。
   ボタンが消灯し、通常の再生に戻ります。

■ A–Bループ再生

A↔Bボタンで区間を指定すると、AとBの間をループ再生します。



1. ▶/■ボタンを押して、ソングを再生します。



2. ループさせる区間の先頭でA↔Bボタンを押します（ボタン点滅）。
3. ループさせる区間の終点で、A↔Bボタンを押します（ボタン点灯）。
   ループ再生が始まります。
4. ループ再生を解除するには、A↔Bボタンを押します。
   ボタンが消灯し、通常の再生に戻ります。

ユーザー・ソングを編集する

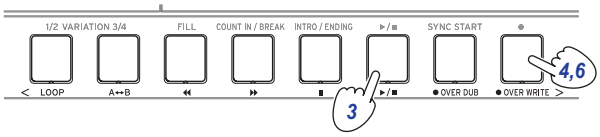
ユーザー・ソング（MIDIデータ）は、録音後に編集することができます。

Tip: SMFファイルやデモ・ソングを編集することもできます。USBメモリーが接続されていれば、編集後に新たなSMFファイルとして保存されます。

部分的に上書きする（オーバー・ライト）

ユーザー・ソングの鍵盤パートの演奏を部分的に上書き録音（オーバー・ライト）します。

1. 編集したいユーザー・ソングを選びます。
2. オーバー・ライトするサウンド・セットまたはパートを選びます。
   Note: ミュートの状態にかかわらず、指定範囲に含まれるすべての鍵盤パートの演奏がオーバー・ライトされます。
   Tip: SMFのソングでは、サウンド・セットを選択できません。
3. ▶/■ボタンを押して、ソングを再生します。



4. オーバー・ライトを開始したい位置まで再生したら、● OVER WRITEボタンを押します（ボタンが赤で点灯）。
   Note: 各パートのミュートの切り替えは、ユーザー・ソングに記録されません。
5. 鍵盤を弾きます。
6. オーバー・ライトを終了したい位置で、もう一度● OVER WRITEボタンを押します（ボタンが消灯）。
   Tip: 他の部分をオーバー・ライトするときは、▶/■ボタンを押して一度再生を終了し、操作3から行ってください。
   Tip: 演奏せずにオーバー・ライトを行うと、録音した部分の演奏を消去できます。

7. オーバー・ライトした内容を確認するときは、▶/■ボタンを押します。

オーバー・ライト（サウンド・セット）の例

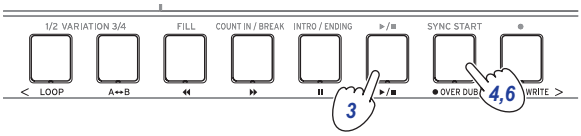
重ねて録音する（オーバー・ダビング）

ユーザー・ソングの鍵盤パートに、演奏を重ねて録音します（オーバー・ダビング）。鍵盤パート、伴奏パートのサウンドの変更も記録できます。

1. 編集したいユーザー・ソングを選びます。
2. オーバー・ダビングするサウンド・セットまたはパートを選びます。

   Note: ミュートの状態にかかわらず、指定範囲に含まれるすべての鍵盤パートの演奏がオーバー・ダビングされます。

   Tip: SMFのソングでは、サウンド・セットを選択できません。
3. ▶/■ボタンを押して、ソングを再生します。

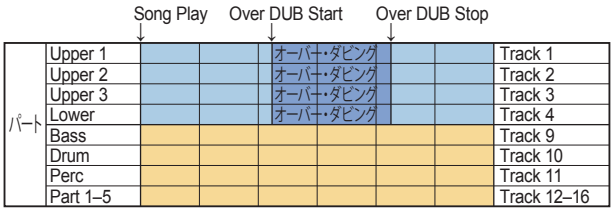


4. ● OVER DUBボタンを押します（ボタンが赤で点灯）。
5. オーバー・ダビングしたい位置で鍵盤を弾きます。

   Note: 各パートのミュートの切り替えは、ユーザー・ソングに記録されません。
6. オーバー・ダビングが終ったら、● OVER DUBボタンを押します（ボタンが消灯）。

   Note: 再度オーバー・ダビングするときは、▶/■ボタンを押して一度再生を終了し、操作3から行ってください。
7. オーバー・ダビングした内容を確認するときは、▶/■ボタンを押します。

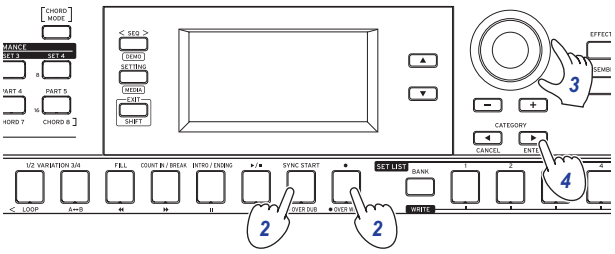
オーバー・ダビング（サウンド・セット）の例



ユーザー・ソングを削除する

1. 削除したいユーザー・ソングを選びます。
2. ● OVER DUBボタンと● OVER WRITEボタンを同時に押します。

   ディスプレイに“Are You Sure?”と表示されます。



3. ダイヤルを回して“Yes”を選びます。
4. CATEGORY ▶（ENTER）ボタンを押します。

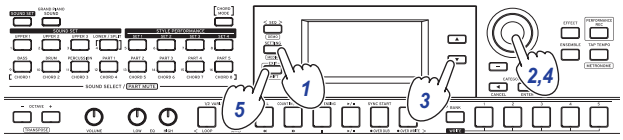
   ユーザー・ソングが削除され、“Completed”と表示されます。

i3を設定する

セッティング・モードの基本的な使い方

i3の設定はセッティング・モードで行います。基本的な操作方法は以下のとおりです。

1. SETTINGボタンを押します。
   ボタンが点灯し、セッティング・モードに入ります。



2. ダイヤルまたは＋ボタン、－ボタンで設定したい項目を選びます。
3. ▼ボタンを押して、カーソルを値に移動させます。
4. ダイヤルまたは＋ボタン、－ボタンで値を選びます。
5. 設定が終わったらEXIT（SHIFT）ボタンを押して、パフォーマンス・モードへ戻ります。

Note: 電源オフ後も設定が保持されます。

主な設定

ペダルの極性を変更する

FOOT CONTROLLER端子に接続したペダルの効果が逆（ペダルから足を離すと音が持続）になる場合は、ペダルの極性を変更して正常な動作に変更できます。

1. FOOT CONTROLLER端子にペダル・スイッチを接続します。
2. セッティング・モードに入り、ダイヤルまたは＋ボタン、－ボタンで“Pedal Polarity”を選びます。
3. ▼ボタンを押して、カーソルを値に移動させます。
4. ダイヤルを回して、極性を変更します。
   －（KORG）：工場出荷時の設定です。コルグPS-1、PS-3、DS-1Hを使用するときに選びます。
   ＋（Reverse）：ペダルの効果が逆になるときに選びます。
5. EXIT（SHIFT）ボタンを押して、パフォーマンス・モードへ戻ります。

ペダルの機能を変更する

FOOT CONTROLLER端子に接続したペダルの機能を変更します。

1. FOOT CONTROLLER端子にペダルを接続します。
2. セッティング・モードに入り、ダイヤルまたは＋ボタン、－ボタンで“Pedal Function”を選びます。
3. ▼ボタンを押して、カーソルを値に移動させます。
4. ダイヤルを回して、ペダルの機能を選びます。
   No Assign：ペダルを使用しないときに選びます。
   Damper：工場出荷時の設定です。コルグPS-1、PS-3、DS-1Hのようなペダル・スイッチを使用するときに選びます。
   Expression：コルグEXP-2のようなエクスプレッション・ペダルを使用するときに選びます。
5. EXIT（SHIFT）ボタンを押して、パフォーマンス・モードへ戻ります。

電池の種類を設定する

電池の残量を正しく表示するため、使用する電池の種類を設定します。

1. セッティング・モードに入り、ダイヤルまたは＋ボタン、－ボタンで“Battery Type”を選びます。
2. ▼ボタンを押して、カーソルを値に移動させます。
3. ダイヤルを回して、電池の種類を選びます。
   Alkaline：アルカリ乾電池
   Ni-MH：ニッケル水素電池
4. EXIT（SHIFT）を押して、パフォーマンス・モードへ戻ります。

オート・パワー・オフ機能を変更する

i3にはオート・パワー・オフ機能があり、フロント・パネルや鍵盤などの操作、MIDI入力をしない状態が約20分経過すると、自動的に電源が切れます。この設定は変更することができます。

1. セッティング・モードに入り、ダイヤルまたは＋ボタン、－ボタンで“Auto PowerOff”を選びます。
2. ▼ボタンを押してから、ダイヤルを回して、“Disable”（無効）を選びます。
3. EXIT（SHIFT）ボタンを押して、パフォーマンス・モードへ戻ります。

セッティング・モード機能一覧

(*: 工場出荷時の設定値)

ナンバー	メニュー	設定値	内容
#01	Key Response	Soft Touch Medium Touch* Hard Touch Fixed_001...127	ベロシティ（鍵盤を弾く強さ)によって音量の変化する割合を設定します。
#02	Split Point	C2...C4*...C7	スプリット機能をオンにしたとき、アッパー・パートとロワー・パートが分かれる位置(スプリット・ポイント)を設定します。
#03	PitchBend Range	Style Setting* Off 01...12	ジョイスティックを操作したときの、鍵盤パートのピッチ(音の高さ)の範囲を設定します。 **Style Setting**：スタイルごとに設定されているピッチの範囲です。 **01 ～ 12**：半音単位で設定します(12=±1オクターブ)。
#04	Pedal Function	No Assign Damper* Expression	「ペダルの機能を変更する」(25ページ)を参照してください。
#05	Pedal Polarity	−(KORG)* +(Reverse)	「ペダルの極性を変更する」(25ページ)を参照してください。
#06	MasterTuning	427.5...440.0*...452.9 Hz	ドラム音を除く全体のチューニングを設定します。
#07	Chord Detect	Fingered1* Fingered2 Fingered3 Fingered3/Bass	コードの認識方法を設定します。 この設定はスプリット機能がオンのときに有効で、オフのときはFingered3が有効になります。 **Fingered1**：1音または複数の音を弾きます。1音を弾くとメジャー・コードが認識されます。 **Fingered2**：コードを認識させるには3音以上弾くことが必要です。1音だけ弾くとユニゾンが再生されます。ルート音と5thを弾くと、メジャー・コードとしてそれらの2音が認識されます。 **Fingered3**：コードを認識させるには常に3音以上弾くことが必要です。 **Fingered3/Bass**：Fingered3の設定でベースの転回機能が有効になります。転回されたコードの最低音(押さえたコードの中で一番低い音)をコードのルート(根音)として常に検知します。これによって、Am7/GやF/Cのような複合コードを指定することができます。
#08	Scale Root Key	C*...B	スケールの基準となる音を設定します。
#09	Upper Scale Type	SoundSet* Equal PureMajor PureMinor Arabic Pythagorean Werckmeister Kirnberger Slendro Pelog Stretch User	「#09 Upper Scale Type」は、アッパー・パートのスケール(音階)を設定します。 「#10 Style Scale Type」は、スタイルの伴奏パート、ロワー・パートのスケールを設定します。 **SoundSet**：スタイルごとに設定されている音階です。 **Equal**(平均律)：一般的に広く使われている音律で、各半音のピッチの変化幅が同じになっています。 **PureMajor**(純正律長音階)：選択した主調和音のメジャー・コードが完全に調和する音律です。 **PureMinor**(純正律短音階)：選択した主調和音のマイナー・コードが完全に調和する音律です。 **Arabic**(アラビック)：アラビア音楽の1/4トーン・スケールを含む音階です。 **Pythagorean**(ピタゴリアン)：古代ギリシャのピタゴラス音階で、メロディー演奏に効果的です。 **Werckmeister**(ヴェルクマイスター)：後期バロック時代に用いられた平均律的な音律です。 **Kirnberger**(キルンベルガー)：18世紀につくられた音律で、主にハープシコードの調律に用いられています。 **Slendro**(スレンドロ)：1オクターブを5音で構成するインドネシアのガムラン音階です。 **Pelog**(ペロッグ)：1オクターブを7音で構成するインドネシアのガムラン音階です。KeyをCに設定しているときに、白鍵を使用します(黒鍵は平均律のピッチです)。 **Stretch**：アコースティック・ピアノ用の音律です。 **User**：ユーザー・スケールです。
#10	Style Scale Type	Equal* PureMajor PureMinor Arabic Pythagorean Werckmeister Kirnberger Slendro Pelog Stretch User	
	User C Tune ～ User B Tune	−99...+00*...99 Cent	「#09 Upper Scale Type」または「#10 Style Scale Type」で"User"を選択すると表示されます。標準の平均律に対しずらす量を設定します。ここでの設定は、全音域で反映されます。 **±50**：1/4アップまたはダウン(クォーター・トーン)になります。 **±99**：ほぼ半音アップまたはダウンになります。
#11	Style Tempo Lock	Off*、On	スタイルを変更するとき、テンポを固定したまま切り換えるか設定します。"On"に設定すると、現在のテンポのまま新しく選んだスタイルが再生されます。
#12	Tap Auto Start	Disable* Enable	TAP TEMPOボタンを続けて押したときに、自動的に演奏が始まるようにするかを設定します。
#13	MIDI Clock	Internal* External	i3のMIDIクロックを内部クロックで動作させる(Internal)か、外部クロックで動作させる(External)かを設定します。

ナンバー	メニュー	設定値	内容
#14	Local Control	Off On*	i3の演奏を内部音源で鳴らす(On)か、鳴らさない(Off)かを設定します。 **On**：鍵盤を弾くとMIDIデータが内蔵音源とUSB TO HOST端子に送られます。 **Off**：鍵盤を弾くとMIDIデータはUSB TO HOST端子に送られますが、内蔵音源は発音しません。エコー・バックがオンのコンピューターと接続し、i3を音源として使用する場合は、二重に発音するのを防ぐために、ここの設定をOffにします。
#15	Metronome Level	0...100*...127	メトロノームの音量を設定します。
#16	Audio In Level	0...100*...127	オーディオ・イン端子に接続されたオーディオ機器からの入力レベルを設定します。
#17	Auto PowerOff	Disable, 4 Hours*	「オート・パワー・オフ機能を変更する」(25ページ)を参照してください。
#18	Battery Type	Alkaline* Ni-MH	「電池の種類を設定する」(25ページ)を参照してください。

USBメモリーを使用する

メディア・モードの基本的な使い方

USBメモリーに関連する操作はメディア・モードで行います。基本的な操作方法は以下のとおりです。

USBメモリーを接続しないとメディア・モードに入ることはできません。

1. **USBメモリーを接続します(8ページ)。**
2. **EXIT(SHIFT)ボタンを押しながら、SETTINGボタンを押します。**
   両方のボタンが点灯し、メディア・モードに入ります。
3. **ダイヤルまたは+ボタン、−ボタンで操作したい項目を選びます。**
   "Push[ENTER]"と表示されます。
4. **CATEGORY▶(ENTER)ボタンを押します。**
   ディスプレイに確認のメッセージが表示されます。
5. **ダイヤルを回して次に行う操作を選び、ディスプレイの表示に従って操作します。**
   たとえば、"Sure?"が表示されている場合、"Yes"を選んでCATEGORY▶(ENTER)ボタンを押すと次に進みます。CATEGORY◀(CANCEL)ボタンを押すと、操作を中止し、操作2に戻ります。
6. **終了すると"Completed!"と表示されますので、EXIT(SHIFT)ボタンを押して、パフォーマンス・モードへ戻ります。**

ユーザー・スタイルをロードする

i3用に用意されたスタイル(ユーザー・スタイル)をロードして使用することができます。詳しくはコルグ・ウェブサイトを参照してください。

USBメモリーに、ユーザー・スタイル(.STYファイル)とユーザー・プログラム(.PCGファイル)をコピーし、その後i3にロードします。

Note: 製品によって仕様が異なるため、i3での再生は、オリジナル・データを作成した製品とサウンドが異なる場合があります。

1. **コンピューターを使ってUSBメモリーのルート・ディレクトリーにi3フォルダーを作り、その中にSTYLEフォルダー、PROGRAMフォルダーを作ります。**
2. **STYLEフォルダー内にユーザー・スタイルをコピーし、PROGRAMフォルダー内にユーザー・プログラムをそれぞれコピーします。**
   - ユーザー・スタイル
     USER01.STY ～ USER06.STY
   - ユーザー・プログラム
     USER01.PCG、USER02.PCG、USERDK.PCG

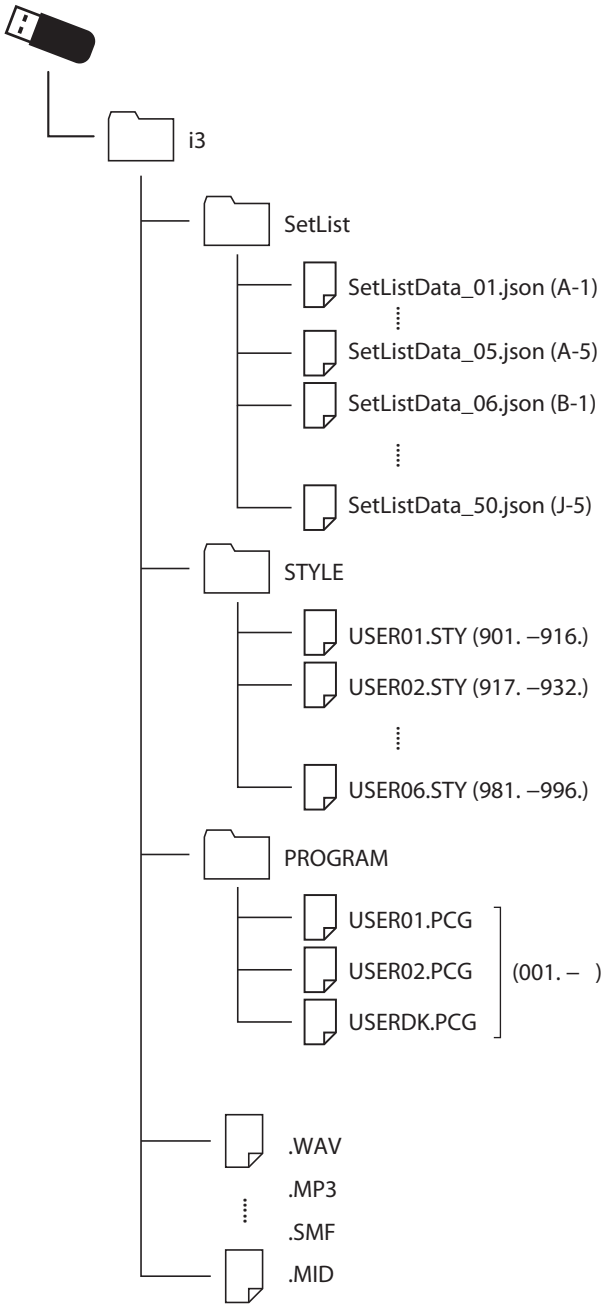
   Tip: ユーザー・スタイル、ユーザー・プログラムは、ロードするデータを選んでコピーすることもできます。
3. **ユーザー・スタイル、ユーザー・プログラムが入ったUSBメモリーを接続します。**
4. **「メディア・モードの基本的な使い方」に従って、メディア・モードに入り、"UserStyle Load"を選んで実行します。**
5. **終了すると"Completed!"と表示されますので、EXIT(SHIFT)ボタンを押してパフォーマンス・モードへ戻ります。**

ロードされたユーザー・スタイルは「Load STYLE xxx」というスタイル名、ユーザー・プログラムは「part load SOUND xxx」というサウンド名で追加されます。

Note: ロード後に別のユーザー・スタイルをロードすると、前回ロードしたユーザー・スタイルは消去されます。

メディア・モード機能一覧

ナンバー	メニュー	内容
#1	SetList BackUp	USBメモリーにすべてのセット・リストを保存します。
#2	SetList Restore	USBメモリーからすべてのセットリストを読み込みます。
#3	UserSong Convert	ユーザー・ソングをSMF（スタンダードMIDIファイル）フォーマットに変換してUSBメモリーに保存します。 **UserSong_xxx**：1曲のユーザー・ソングを選んで変換します。 **All Songs**：すべてのユーザー・ソングを変換します。
#4	UserStyle Load	USBメモリーからユーザー・スタイルをロードします。 詳しくは「ユーザー・スタイルをロードする」（28ページ）を参照してください。
#5	Media Speed	接続したUSBメモリーの書き込み速度を測定します。 パフォーマンス・レコーディングを行う場合、書き込み速度が遅いUSBメモリーでは、正しく録音できない場合があります。 詳しくはコルグ・ウェブサイトを参照してください。
#6	Media Format	USBメモリーをフォーマットします。 詳しくは「USBメモリーをフォーマットする」（8ページ）を参照してください。
#7	System Update	システムのファームウェアをアップデートします。



ファイルとデータ構造

i3でUSBメモリーに保存、またはUSBメモリーをフォーマットすると「**i3**」というフォルダーが自動的に作成されます。
メディア・モードのSetList BackUp、UserSong Convertを行うと、i3フォルダーに以下のファイルが保存されます。

SetList：SetListフォルダーが作成され、このフォルダーにSetListData_##.jsonというファイルが保存されます。「##」の部分はファイル番号が入り、01 ～ 50の番号が入ります。

UserSong_###.mid：MIDIファイルにコンバートされたi3のUser Songファイルが保存されます（SMFフォーマット0）。「###」の部分はファイル番号が入ります。

i3ではi3フォルダー内にあるWAV、MP3、SMF、MIDファイルをユーザー・ソングとして読み込むことができます。

付録

ソフトウェアのバージョンの確認

1. **EXIT（SHIFT）ボタンを押しながら電源ボタンを押します。**
   i3が起動すると、ディスプレイにソフトウェアのバージョンが表示されます。
2. **電源を切って、もう一度入れなおします。**

工場出荷時の状態に戻す

i3の設定を、工場出荷時の状態に戻します。
この操作では、セット・リスト、ユーザー・ソングおよびセッティング・モードで行った設定をリセットします。そのため、ユーザー・ソングや作成したセット・リストは消えてしまいます。ユーザー・ソングやセット・リストを残しておきたい場合は、あらかじめメディア・モードでUSBメモリーに保存してください（29ページの「SetList BackUp」、29ページの「UserSong Convert」参照）。

実行中はi3の電源を切らないでください。リセットに失敗してi3が使用できなくなる可能性があります。

1. **電源を切ります。**
2. **BANK（WRITE）ボタンを押しながら、電源ボタンを押します。**
   "FactoryPreload"と表示されます。
3. **実行するにはCATEGORY ▶（ENTER）ボタンを押します。**
   リセットが始まります。
   工場出荷時の設定に戻ると、ディスプレイに"Completed"と表示されます。
   Tip: キャンセルしたい場合は、CATEGORY ◀（CANCEL）ボタンを押してください。
4. **電源を切って、もう一度入れなおします。**

エクスプレッション・ペダルのキャリブレーション

FOOT CONTROLLER端子に接続したエクスプレッション・ペダル（EXP-2等）のキャリブレーションを行い、ペダルの可変範囲を設定します。

1. **電源を切った状態で、エクスプレッション・ペダルを接続します。**
2. **SET LIST 1ボタンを押しながら、リア・パネルの電源ボタン（⏻）を押します。**
   ディスプレイに"Pedal Calib."と表示され、▶/■ボタンが点滅します。
3. **▶/■ボタンを押します。**
   ディスプレイに"Measuring Min"と表示されます。
4. **ペダルを手前に戻してから、足を離します。**
   ディスプレイに値が表示されます。
5. **▶/■ボタンを押します。**
   ディスプレイに"Measuring Max"と表示されます。
6. **ペダルを完全に踏み込んでから、足を離します。**
   ディスプレイに値が表示されます。
7. **▶/■ボタンを押します。**
   キャリブレーションが終了し、ディスプレイに"Completed"と表示されます。
8. **電源を切って、もう一度入れなおします。**
   ペダルを操作して正しく動作しているかどうかを確かめてください。動作が正しくない場合は、再度操作1から行います。

故障とお思いになる前に

動作がおかしいと思ったときは、以下の項目を確認してください。

電源が入らない

- □ ACアダプターのプラグがコンセントに接続されていますか？
- □ 電源ボタンを押しましたか？

電源が切れない

- □ 電源ボタンを長く押しましたか？

電源が切れてしまう

- □ オート・パワー・オフ機能が有効になっていませんか？

鍵盤を弾いても音が出ない

- □ スピーカーまたはヘッドホンが正しく接続されていますか？
- □ i3のボリュームは上がっていますか？
- □ 各パート・ボタンがミュートされていませんか？
- □ FOOT CONTROLLER端子に接続したペダルでのボリュームが下がっていませんか？
- □ 弾いた鍵盤の一部の音が出ない場合は、最大同時発音数を超えていませんか？
- □ セッティング・モードでローカル・コントロールの設定が"On"になっていますか?
- □ 鍵盤パートがミュートされていませんか?

音が止まらない

- □ ペダルの機能や極性は、正しく設定されていますか？
- □ GRAND PIANO/SOUNDボタンを押してください。

音が二重に発音する

- □ コンピューターと接続していますか？ DAWなどのソフトウェアと組み合わせて使用する場合、i3のローカル・コントロールの設定を"Off"にする必要があります。

接続したパワード・モニター・スピーカーなどで音が歪む

- □ 接続したスピーカー等で過大入力になっていませんか？
  i3のボリューム・ノブを調節してください。

ピッチがずれる

□ トランスポーズ機能が正しく設定されていますか？
□ セッティング・モードの"MasterTuning"、鍵盤パートのオクターブなどは正しく設定されていますか？
□ スケールは正しく設定されていますか？
セッティング・モードの「Upper Scale Type」（26ページ）、「Style Scale Type」（26ページ）の設定を確認してください。

ノイズが発生する

□ パートの音量を上げた場合に、デジタル信号処理で過大レベルになり、歪み音やノイズ音が発生する場合があります。これは故障ではありません。
各パート・ボタンで音量を下げて調節してください。
□ エフェクトによっては、過入力による歪み音やノイズ音が発生する場合があります。これは故障ではありません。
□ 電源環境等によっては、グランドのループ等によるノイズが発生する場合があります。

FOOT CONTROLLER端子に接続したペダル・スイッチ、フット・コントローラーの反応がおかしい

□ ペダルの機能や極性は、正しく設定されていますか？
セッティング・モードでペダルの機能（Pedal Function）や極性（Pedal Polarity）を設定してください（25ページ）。
□ エクスプレッション・ペダルの可変範囲は、正しく設定されていますか？
「エクスプレッション・ペダルのキャリブレーション」（30ページ）を行ってください。

ユーザー・ソングが録音できない

□ ユーザー・ソングの録音は最大999曲です。
ユーザー・ソングを消去してください（24ページ）。

MIDI OUT端子に接続したMIDI音源が演奏できない

□ ケーブルがMIDI音源のMIDI IN端子に接続されていますか？

MIDI OUT端子に接続した機器と同期できない

□ i3のMIDI OUT端子からMIDIクロック・メッセージは送信されません。

コンピューターとのMIDI送受信が正しく応答しない

□ USBケーブルがUSB TO HOST端子に正しく接続されていますか？

メディア・モードに入れない

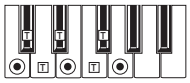
□ USBメモリーが正しく接続されていますか？
正しく接続されているときは、ディスプレイに、USB が表示されます。

コード認識一覧

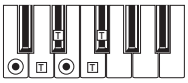
コード認識の種類が"Fingered2"に設定されている場合、以下の鍵盤でコードを指定できます。

Tip: コード認識の種類はセッティング・モードの「Chord Detect」で変更することができます（26ページ）。

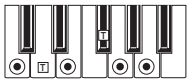
Major
3-note



2-note

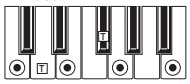


Major 6th
4-note



2-note

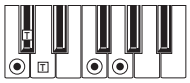
Major 7th
4-note



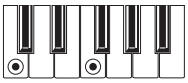
3-note

2-note

Sus
3-note

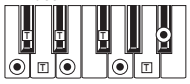


2-note

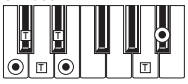


Sus 2
3-note

Dominant 7th
4-note

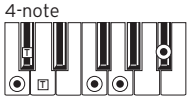


3-note

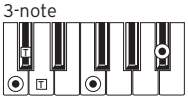


2-note

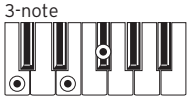
Dominant 7th Sus 4
4-note



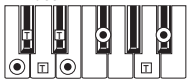
3-note



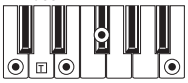
Flat 5th
3-note



Dominant 7th ♭5
4-note

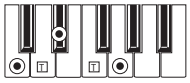


Major 7th ♭5
4-note



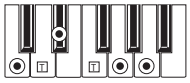
Major 7th Sus 4
4-note

Minor
3-note

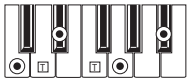


2-note

Minor 6th
4-note

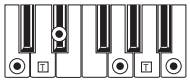


Minor 7th
4-note



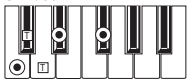
3-note

Minor-Major 7th
4-note

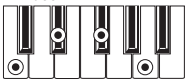


3-note

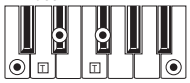
Diminished
3-note



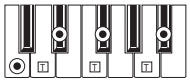
Diminished 7th
4-note



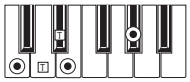
Diminished Major 7th
4-note



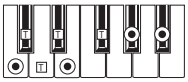
Minor 7th ♭5
4-note



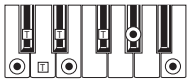
Augmented
3-note



Augmented 7th
4-note



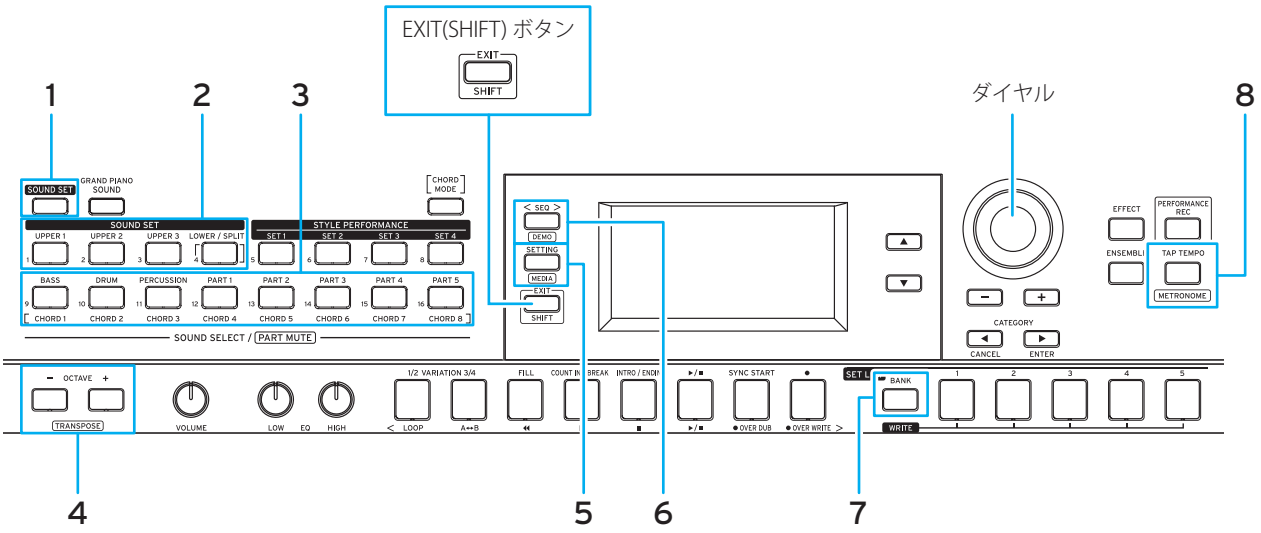
Augmented Major 7th
4-note



● = コードの構成音　　T = テンションとして使用可

ショート・カット一覧

i3の一部の機能は、ボタンやダイヤルを組み合わせることで、すばやく設定を変えることができます。
対応する機能の詳しい説明は、各機能の説明を参照してください。



EXIT(SHIFT)ボタン を使ったショート・カット

EXIT(SHIFT)ボタンを押しながら以下のボタンを押すことで、対応する操作を行うことができます。

ボタン		機能	参照ページ
2	鍵盤パート・ボタン（UPPER 1 ～ 3ボタン、LOWER/SPLITボタン）	ボタンに対応するパートの オン、オフ（ミュート、ミュート解除）	「サウンド・セットの設定を変える」（13ページ）
3	伴奏パート・ボタン（BASS、DRUM、PERCUSSION、PART 1 ～ 5ボタン）		「スタイルの設定を変える」（19ページ）
4	OCTAVEボタン	鍵盤のキーを半音単位で変更（トランスポーズ）	「キーを変更する（トランスポーズ）」（14ページ）
5	SETTINGボタン	メディア・モード に入る	「メディア・モードの基本的な使い方」（28ページ）
6	SEQ ボタン	デモ演奏モード に入る	「デモ・ソングを聴く」（11ページ）
7	BANKボタン	セット・リストのバンクを逆順で選択	「セット・リストを呼び出す」（16ページ）
8	TAP TEMPOボタン	メトロノームのオン、オフ	「メトロノームを鳴らす」（11ページ）

ダイヤルを使ったショート・カット

以下のボタンを押しながらダイヤルを回すことで、対応する操作を行うことができます。
操作可能な機能は、i3のモードによって変わります。

ボタン		モード	機能	参照ページ
1	SOUND SETボタン	パフォーマンス・モード	鍵盤パートと伴奏パートの音量バランスの調整	「鍵盤パートと伴奏パートの音量バランスを調節する」（20ページ）
		シーケンサー・モード	サウンド・セットの音量調整	---
2	鍵盤パート・ボタン（UPPER 1 ～ 3ボタン、LOWER/SPLITボタン）	パフォーマンス・モード シーケンサー・モード	ボタンに対応するパートの音量調整	「サウンド・セットの設定を変える」（13ページ）
		パフォーマンス・モード（エフェクト設定画面1または2）	ボタンに対応するパートからエフェクト1または2へのセンド・レベルの調整	「効果のかかり方を変える」（15ページ）
3	伴奏パート・ボタン（BASS、DRUM、PERCUSSION、PART 1 ～ 5ボタン）	パフォーマンス・モード シーケンサー・モード	ボタンに対応するパートの音量調整	「スタイルの設定を変える」（19ページ）
		パフォーマンス・モード（エフェクト設定画面3または4）	ボタンに対応するパートからエフェクト3または4へのセンド・レベルの調整	「効果のかかり方を変える」（15ページ）
6	SEQボタン	シーケンサー・モード	ソングの音量調整	---
8	TAP TEMPO ボタン	すべてのモード	テンポの変更	「テンポを変更する」（17ページ）

仕様

機能	i3	
鍵盤	61鍵	
	タッチ・コントロール	ソフト(軽め)、ミディアム(標準)、ハード(重め)、フィックス(固定)
音源	ステレオPCM音源	
最大同時発音数	64ボイス	
サウンド	790のサウンド、59のドラム・キット(GM互換のサウンド・セット含む)	
サウンド・セット	200	
スタイル・パフォーマンス	270スタイル×4セット	
エフェクト	システム	鍵盤パート(2ステレオ・デジタル・マルチ - エフェクト) 伴奏パート(2ステレオ・デジタル・マルチ - エフェクト)
	バリエーション	173
スタイル	270	
	スタイル・コントロール	2イントロ、4バリエーション、2フィル、1ブレイク、2エンディング、シンクロ・スタート、タップ・テンポ
オーディオ・プレーヤー	対応フォーマット:MP3 (44.1kHz)、WAV (44.1kHz)	
パフォーマンス・レコーディング	対応フォーマット:WAV(44.1kHz、16-bit) 連続録音時間:最大1時間	
シーケンサー	録音	リアルタイム録音対応 16トラック、最大999ソング データ容量:約100,000音符(999曲)
	再生	ソング・プレイ (再生しながらの鍵盤演奏)に対応
	対応フォーマット	再生:SMF (スタンダード MIDI ファイル)フォーマット 0 または 1 録音:オリジナルフォーマット(SMF0変換出力機能あり)
	デモ・ソング	3曲(曲 + 音色紹介)
スケール	11タイプ(ユーザー含む)	
コントロール	電源ボタン、ジョイスティック、SOUND SETボタン、GRAND PIANO/SOUNDボタン、鍵盤パート・セクションの各ボタン、スタイル・パフォーマンス・セクションの各ボタン、CHORD MODEボタン、伴奏パート・セクションの各ボタン、モード・セクションの各ボタン、▲ボタン、▼ボタン、ダイヤル、+ボタン、−ボタン、CATEGORY ◀、▶(CANCEL、ENTER)ボタン、EFFECTボタン、PERFORMANCE RECボタン、TAP TEMPOボタン、ENSEMBLEボタン、SET LISTセクションの各ボタン、トランスポート・セクションの各ボタン、EQノブ(LOW、HIGH)、VOLUMEノブ、OCTAVEボタン(+、−)	
セット・リスト	ボタン数 5(×10バンク)	
テンポ	30 ～ 240	
トランスポーズ	−12 ～ 0 ～+12(半音単位)	
チューニング	427.5Hz ～ 452.9Hz	

機能	i3	
接続端子	FOOT CONTROLLER端子	6.3mmフォーン・ジャック(ハーフ・ダンパー非対応)
	AUDIO IN端子	3.5mmステレオ・ミニフォーン・ジャック
	OUTPUT L/MONO、R端子	6.3mm TSフォーン・ジャック、不平衡
	ヘッドホン端子	3.5mmステレオ・ミニフォーン・ジャック
	USB TO DEVICE端子	USB Type A端子、USB メモリー接続用
	USB TO HOST端子	USB Type B端子、コンピューター接続用
	MIDI OUT端子	MIDI音源等の接続用
MIDI	MIDI OUT、USB MIDI対応	
ディスプレイ	バックライト付カスタムLCD	
電源	電源アダプター	AC アダプター (DC 12V、⊖-◎-⊕)
	電池	単3形電池(アルカリ乾電池またはニッケル水素電池)×6(別売)
	電池寿命	アルカリ乾電池使用時:約8時間
	消費電力	6 W(無負荷時消費電力:0.1 W、230 V時)
外形寸法/質量	外形寸法(W × D × H)	1,037 × 296 × 80mm
	質量	4 kg(電池含まず)
付属品	クイック・スタート・ガイド、安全上のご注意/保証規定/アフターサービス、ACアダプター	
アクセサリー(別売)	PS-1 ペダル・スイッチ PS-3 ペダル・スイッチ DS-1H ダンパー・ペダル EXP-2 フット・コントローラー	

※ 仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

■ MIDIチャンネルについて

パフォーマンス・モードおよびシーケンサー・モード(ユーザー・ソング選択時)のMIDI Chは以下となります。

Ch01: Upper 1パート
Ch02: Upper 2パート
Ch03: Upper 3パート
Ch04: Lowerパート
Ch09: Bassパート
Ch10: Drumパート
Ch11: Percussionパート
Ch12 ～ 16: その他のパート1 ～ 5

Note: SMF再生時は、そのファイルの設定に依存します。

[MUSIC WORKSTATION]
Model: i3

Date: 2019. 11. 7
Ver.: 1.00

MIDIインプリメンテーション・チャート

ファンクション…		送　信	受　信	備　考
ベーシック チャンネル	電源ON時 設定可能	1 ×	1 ×	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	× × **********	3 × ×	
ノート ナンバー	音域	0−127 **********	0−127 0−127	*4
ベロシティ	ノート・オン ノート・オフ	○ 9n, V=1−127 ○ 8n, V=0−127	○ 9n, V=1−127 ×	
アフター タッチ	キー別 チャンネル別	○ ○	× ○	*1 *1
ピッチ・ベンド		○	○	
コントロール チェンジ	0, 32	○	○	バンク・セレクト (MSB, LSB)
	1, 2	○	○	モジュレーション
	64	○	○	ダンパー
	6	○	○	データ・エントリー (MSB) *1
	7, 11	○	○	ボリューム、エクスプレッション
	10, 91, 93	○	○	パンポット、エフェクト1・2センド *1
	71, 72, 73	○	○	ハーモニー・コンテンツ、EGタイム (リリース、アタック) *1
	74, 75	○	○	ブライトネス、ディケイ・タイム *1
	76, 77, 78	○	○	ビブラート・レート、デプス、ディレイ *1
	98, 99	○	○	NRPN (LSB, MSB) *1
	100, 101	○	○	RPN (LSB, MSB) *1
	120, 121	○	○	オール・サウンド・オフ、リセット・オール・コントローラー *1
プログラム チェンジ	設定可能範囲	○ 0−127 **********	○ 0−127 0−127	
エクスクルーシブ		○	○	*2
コモン	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアル タイム	クロック コマンド	× ×	○ ×	*3
その他	ローカル ON／OFF オール・ノート・オフ アクティブ・センシング リセット	× × ○ ×	× ○ (123−127) × ×	*1 *1

備考

*1: シーケンサ・データ送信可能。
*2: インクワイアリーとマスター・ボリュームの設定を含む。
*3: MIDI Clock設定がExternal のときのみ受信する。
*4: プログラムにより全音域を発音できない場合がある。

モード1: オムニ・オン、ポリ　　モード2: オムニ・オン、モノ　　○: あり
モード3: オムニ・オフ、ポリ　　モード4: オムニ・オフ、モノ　　×: なし

MIDIインプリメンテーションの配布については、コルグ・ウェブサイトをご確認ください。

株式会社コルグ

本社：〒206-0812 東京都稲城市矢野口 4015-2

© 2019 KORG INC.

www.korg.com
Published 06/2026